

OPEN
CAMPUS
2024

オープンキャンパス

8.9^金

三重大学
教育学部

Faculty of Education Guide Book

2025
学部案内

先生先行
!!UNIVERSITY!!

<https://www.edu.mie-u.ac.jp/>

教育学部HP携帯サイト

教育学部イメージ動画

教育学部学生座談会



MIE UNIVERSITY

三重大学 教育学部

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

TEL. 059-232-1211(代)

<https://www.edu.mie-u.ac.jp/>

教育学部へようこそ

教育学部では、たくさんの分野を用意して、教員を志望する皆さんをお待ちしております。



CONTENTS

- | | | |
|----------------------------|--------------------|------------------------|
| 01 学部長あいさつ | 08 国語教育コース | 22 附属教職支援センター |
| 02 教育学部が育てる人物像 | 09 社会科教育コース | 23 入試情報 |
| 02 教育学部の5つの強さ | 10 数学教育コース | 25 進路状況 |
| 03 教育学部の5つの特徴 | 11 理科教育コース | 27 Questions & Answers |
| 04 取得できる免許一覧 | 12 音楽教育コース | 28 コース別の進路状況 |
| 06 アドミッション・ポリシー／ディプロマ・ポリシー | 13 美術教育コース | 30 活躍する卒業生の声 |
| 07 三重大学教育学部での修学の流れ | 14 保健体育コース | 32 キャンパスマップ |
| | 15 技術・ものづくり教育コース | 33 アクセス |
| | 16 家政教育コース | |
| | 17 英語教育コース | |
| | 18 特別支援教育コース | |
| | 19 幼児教育コース | |
| | 20 学校教育コース 教育学専攻 | |
| | 21 学校教育コース 教育心理学専攻 | |

MESSAGE

学部長からのメッセージ

広い教養と高い専門性をもつ教育者を育てます。



教育学部の建物の脇には「ミネルバのフクロウ」と題されたレリーフがあります。ローマ神話の女神であるミネルバは知恵の神であり、フクロウはその使者とされています。このレリーフは、今から約100年前に教育学部の前身である三重県師範学校の玄関に飾られていたものを移設したものです。弁証法で有名な哲学者ヘーゲルは「ミネルバのフクロウは黄昏に飛び立つ」という言葉を残しています。フクロウは黄昏時から活動を始めますが、人々の1日のあり様をつぶさに見つめ、その様子をミネルバに報告していたのでしょう。100年近く前の先輩たちも、新しい時代の到来に向け、いまの時代をしっかりと見つめ、課題を共有し、解決に向けて努力をしてきました。その思いを形にしたものが「ミネルバのフクロウ」なのです。教育の場にデジタルの波が押し寄せ、学校が大きく変わりました。この変化をしっかりと見つめ、自ら課題を解決し、新しい時代を牽引しようという熱い思いを持ったみなさんを教育学部は歓迎します。教育学部では多様な入試の一環として平成30年度からは三重県南部地域を対象とした地域推薦入試、令和3年度からは三重県全域を対象とした地域推薦入試も開始しています。

さて、教育学部で学ぶ内容は自動車のタイヤに似ています。自動車には4つのタイヤがついていて、どのタイヤが欠けていてもうまく走れません。また車軸が曲がっていてもだめです。教育学部では、教職の意義や教員の役割、子どもの発達の様子や生徒指導などに関する教職関連科目と、国語や社会、音楽といった教科の内容に関する科目(教科専門科目)という大きな柱が2つあります。これは車の前輪と後輪のような関係で、どちらも欠くことができません。さらに教職でも教科でも「知識とし

て知っている」とこと「それを上手く教える」とは違います。理論と実践の2つがかみ合ってこそ車はまっすぐ進むのです。本学部では、教科や教職に関する高い専門的知識を身につけるための教育環境を整備・充実させるとともに、人文・社会科学、自然科学、芸術、体育などに関する幅広い教員を配置しています。また、問題解決力の向上を目的としてPBL(Problem Based Learning:問題解決型学習)の手法を取り入れた授業を実施するとともに、1年生の段階から近隣の幼小中学校での授業見学や授業支援を通じて、学校での子どもたちの姿に触れる機会を設けています。さらに、教育・研究・実践の実験校として4つの附属学校園(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)と附属教職支援センターがあり、みなさんの教員への道を支援します。

社会の変化のスピードはどんどん速くなり、将来を見通すことが難しい時代になってきています。子どもたちはこのような時代を生きていくことになりますので、自ら考え・判断し・実行していく力を培っていく必要があります。教師の仕事は、子どもたちの人生にも関わるものであり、やりがいとともに責任を伴うものでもあります。社会や教育の現場は日々変化していますので、情報のアンテナを高くし、自ら学び、成長し続けることが必要となるのです。教育の効果は形には見えにくいものですが、その効果は10年後、30年後、50年後に明らかな形として現れてきます。教育は未来を創る仕事です。一緒に未来を創っていきましょう。本教育学部は、みなさんが未来を創る人材となる、そのためのサポートを全力で行っていきます。

教育学部長・教育学研究科長

伊藤 信成



21世紀、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきており、教師は教育現場で様々な問題に柔軟に対応する能力が求められています。三重大学教育学部では、地域と密接な連携を取りつつ、総合的な豊かな見識、感性、国際性、高度な専門的学識を身につけられるようにしていきます。

また、様々な教育問題、教育環境の変化に適切に対応できる創造性と問題解決能力を培い、力強くリーダーシップの取れる人材をPBL（問題／課題解決型学習）等を通じて養成していきます。

教育学部が育てる人物像

教育学部の5つの“強さ!”

1 “就職率が高い!”

学校教育教員養成課程の令和5年度卒業における公立小・中学校採用試験合格率は71%を超えています。

2 “専門教育に強い!”

教科別コース制になっているため、各専門教員による質の高い指導を受けることができ、教科と教育に関する高い専門能力を養うことができます。

3 “教育実践力を高める!”

1年次から学校現場に触れ、子ども理解を深め、学校教育活動を体験する教育実地研究に参加することによって、今後の教員に求められている教育実践力を身につけることができます。

4 “地域との連携をはかる!”

教育学部に隣接する学校園と連携して、学力向上・理科実験・体育活動・食教育等に関する教育活動を支援することを通して、学生の幅広い教育力の向上に努めています。

5 “国際展開をはかる!”

学校現場に多くの外国人が通学する地域の特徴に因るため、本学部では国際的な視野を持つ教員の養成をめざし、オークランド大学（ニュージーランド）や文藻外語大学（台湾）をはじめ多くの海外大学での教育に接する機会や、交換留学の機会を提供しています。

TOPICS トピックス 生きた教育を経験する教育実習

教育学部には、教育・研究・実践の補完施設として、4つの附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）と、附属教職支援センターがあります。3、4年次の教育実習は、主として4つの附属学校園で行われます。教育実習は、授業への取り組み方・教師観・子ども観・保護者観などの、それまでの学習成果について、再検討や反省をする貴重な体験です。そして、生きた教育の場で得られる多くの経験は、「教師になる」ということを再認識させ、勉学へのモチベーションを高める機会でもあります。

教育学部の5つの“特徴!”

1 “高い教員就職率につながる手厚いサポート”

教育学部では教員採用試験を受験する学生を対象に、3年次後期から教員採用試験合格のためのセミナー（教採セミナー）を開催しています。教採セミナーでは、学内模試や面接対策等を通して、筆記・論文試験、面接、模擬授業等の対策を行います。学校現場経験者を中心とした専任スタッフが、教員採用試験の日まで手厚いサポートを行い、高い教員就職率につながっています。

2 “幅広い専門性と複数免許の取得”

教育学部には、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育、特別支援教育、幼児教育、学校教育といった多様なコースがあります。13のコースのうちいずれかに所属して学び、今日の学校現場で各教科を指導するための専門的な知識を得ることができます。4年間を通じて幅広い専門性を身につけられますので、複数の校種や教科の教員免許状を得ることも可能です。

3 “教育実践力を育成するカリキュラム”

教科及び教職に関する専門的科目の学習以外にも、学校現場での実地的な学習と省察を通して、実践的な教育力を身につけることが求められています。そのために、1年次の必修科目である「キャリア教育入門」を始めとして、4年間を通じた系統的な学校現場体験及び教育実習によって、教育現場に通用する教育実践力を、計画的に身につけるカリキュラムが用意されています。

4 “地域の学校・社会との連携”

教育学部の北に隣接する一身田校区の4校（栗真小、白塚小、一身田小、一身田中）及び南に隣接する橋北校区の5校園（南立誠幼、北立誠小、南立誠小、西が丘小、橋北中）と連携して、各学校園の教育活動を支援するとともに、学生の教育実践力の育成をはかる取り組みが平成18年度から進められています。また平成29年には東紀州サテライト教育学舎を立ち上げ、教育支援を行うことで、地域で活躍する人材を育成しようとしています。

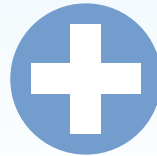
5 “国際的教育環境の充実”

国語教育コースでは、日本語教育に関する科目も開講し、日本語を母語としない人々への日本語教育の基礎力を持った人材を育成します。また、本学部では、海外の大学と提携して国際的な視野をもつ教員養成に力を入れており、オークランド大学や文藻外語大学の研修プログラムを実施しています。さらに遠隔通信システムを利用した異文化コミュニケーション能力の育成など、様々な実践的な取り組みを行っています。

“取得できる免許一覧”

所属するコース及び選修に応じて取得することができる教育職員免許状

コース	選修	取得できる免許
国語、社会科、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・ものづくり、家政、英語、学校教育	初等教育	小学校教諭一種
国語、社会科、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・ものづくり、家政、英語教育	中等教育	所属するコースに対応した教科の 中学校教諭一種
幼児教育		幼稚園教諭一種
特別支援教育		小学校教諭二種 もしくは 中学校教諭二種 + 特別支援学校教諭一種 (知、肢、病)



上記以外に取得することができる教育職員免許状

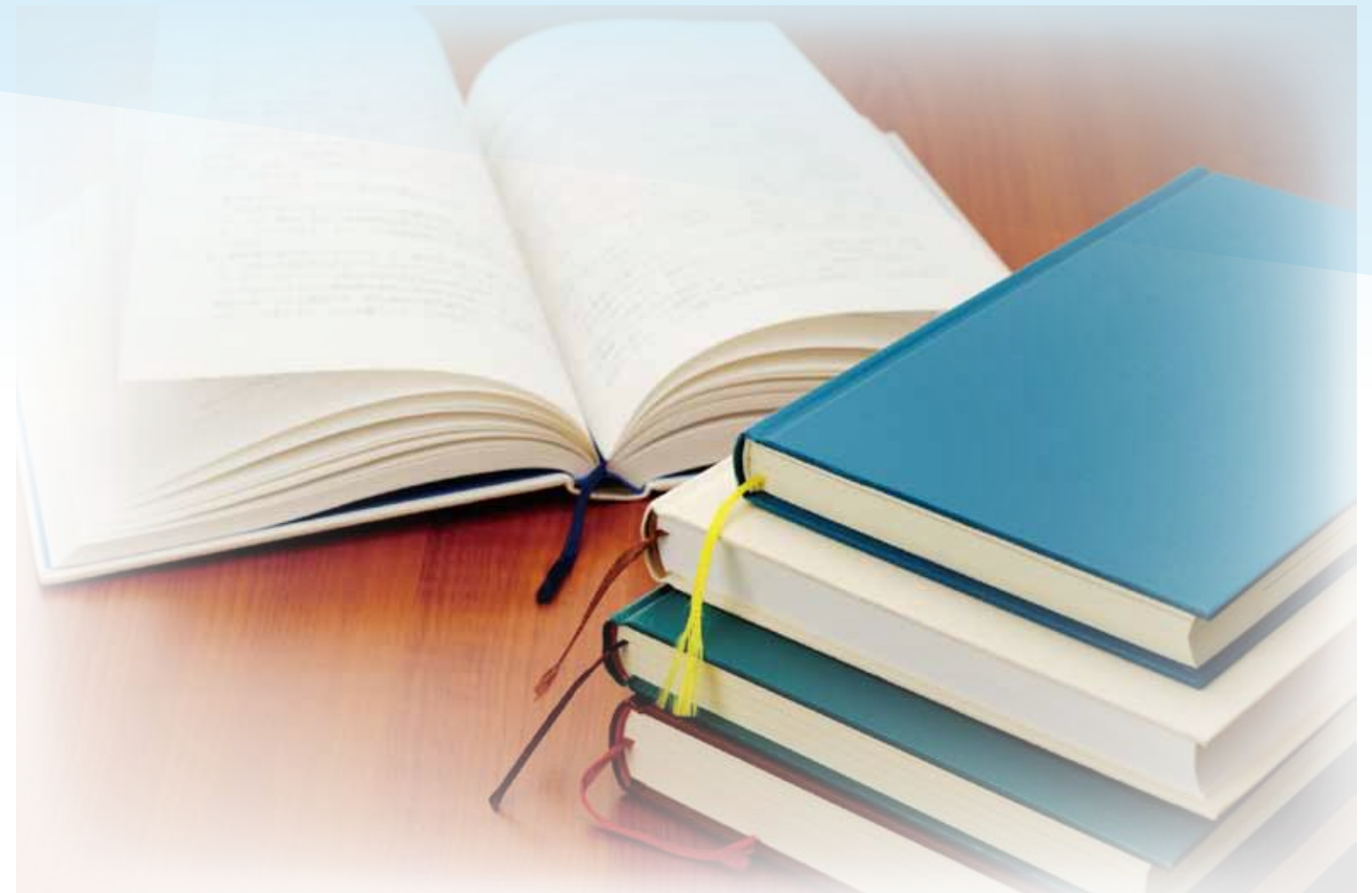
入学後のカリキュラム、時間割等により取得できる免許の種類やその数は異なります。
また、入学したコース・選修によって免許取得の難易度は異なります。
免許状は所定単位を取得することにより取得可能。

- 幼稚園教諭一種免許状・二種免許状
- 小学校教諭一種・二種免許状
- 中学校教諭一種・二種免許状
(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語、技術)
- 高等学校教諭一種免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、情報、工業、英語)
- 特別支援学校教諭一種免許状・二種免許状
(知、肢、病)

取得することができるその他の資格等

資格等は所定単位を取得することにより取得可能。

- 保育士 (幼児教育コースの学生のみ取得可能)
- 学芸員
- 学校図書館司書教諭



アドミッション・ポリシー／ディプロマ・ポリシー

このような人を求めます



このような人を育てます

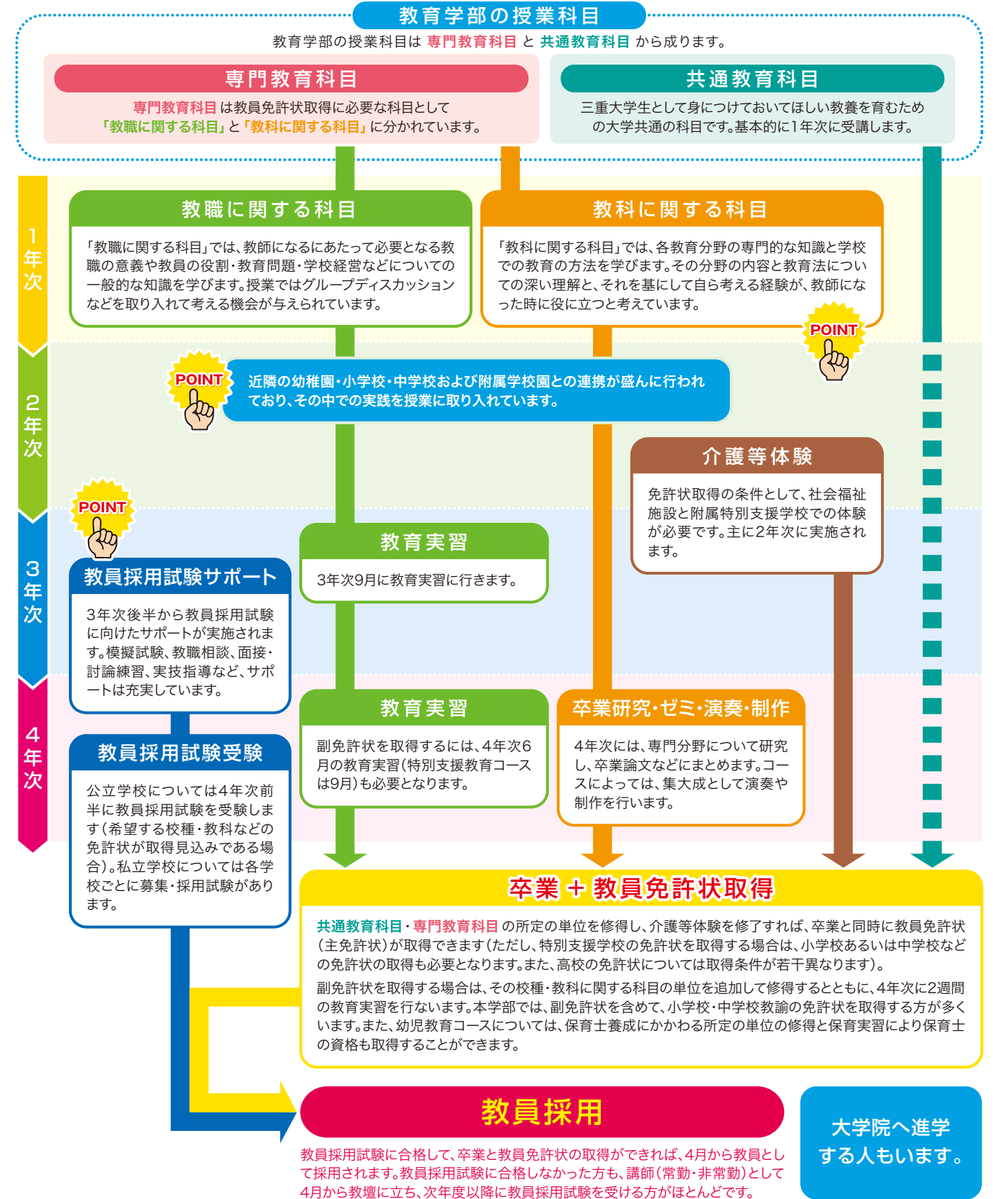


入学者選抜方針

- 一般選抜前期日程**
志望するコース・専攻で学修するために必要となる総合的基礎学力を見るために、大学入学共通テスト(6教科7科目、6教科8科目、7教科8科目)を課します。また、論理的思考力・判断力、発想力、読解力、表現力、関心・意欲及び各コースへの適性等を見るために、個別学力検査(国語、数学又は英語から2教科の筆記試験、実技試験及び調査書等)を課します。
- 一般選抜後期日程**
志望するコース・専攻で学修するために必要となる総合的基礎学力を見るために、大学入学共通テストを課します。また、論理的思考力・判断力、発想力、表現力、関心・意欲・態度及び各コースへの適性等を見るために、個別学力検査(実技試験、小論文、面接及び調査書等)を課します。
- 学校推薦型選抜**
【大学入学共通テストを課さない】
【推薦Ⅰ】
技術・ものづくり教育(中等教育選修のみ)、学校教育(教育学専攻、教育心理学専攻)の各コース・専攻で募集します。志望する分野における学修への強い熱意と探究心、積極的に主体的に取り組む態度を見るために、個別学力検査(面接及び出願書類)を課します。また、志望する分野における専門的知識と幅広い基礎学力を見るために、個別学力検査(小論文)を課します。
- 学校推薦型選抜**
【大学入学共通テストを課す】
【推薦Ⅱ】
家政教育コース(初等教育選修)で募集します。志望する分野における学修への強い熱意と探究心、積極的に主体的に取り組む態度を見るために、個別学力検査(面接及び出願書類)を課します。また、志望する分野で学修するために必要となる総合的基礎学力を見るために、大学入学共通テストを課します。
- 学校推薦型選抜**
【大学入学共通テストを課す】
【地域推薦(三重県南部地域)】
国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育(いずれも初等教育選修のみ)、及び学校教育(教育学専攻、教育心理学専攻)の各コース・専攻で募集します。志望する分野における学修への強い熱意と探究心、積極的に主体的に取り組む態度、及び、三重県南部地域の小学校教育に将来的に貢献する意志の有無を見るために、個別学力検査(面接及び出願書類)を課します。また、志望する分野で学修するために必要となる総合的基礎学力を見るために、大学入学共通テストを課します。
- 学校推薦型選抜**
【大学入学共通テストを課す】
【地域推薦(三重県全域)】
国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育(いずれも初等教育選修のみ)、特別支援教育、幼児教育及び学校教育(教育学専攻、教育心理学専攻)の各コース・専攻で募集します。志望する分野における学修への強い熱意と探究心、積極的に主体的に取り組む態度、及び、三重県の教育に将来的に貢献する意志の有無を見るために、個別学力検査(面接及び出願書類)を課します。また、志望する分野で学修するために必要となる総合的基礎学力を見るために、大学入学共通テストを課します。

三重大学教育学部での修学の流れ

入学時のコース・専攻および選修で免許状の種類が決まります。例えば、国語教育コース・中等教育選修に入学された方は、卒業時に主に中学校の国語教諭の免許状を取得することができます。ただし、さらに単位を修得することにより例えば小学校の教諭の免許状も取得することができます。前者のように入学時のコース・専攻および選修で決まり、卒業時に取得できる免許状を主免許状といい、後者のように、それ以外の免許状を副免許状といいます。以下に、卒業および免許状取得の流れの概略を説明します。



国語教育コース



募集人員 初等教育選修(前期11名、後期3名)、
中等教育選修(前期7名、後期2名)

ことばを知ることは、世界を知ること 子どものことばと心を育む教育を追究します

私たちは、ことばで考え、ことばで知り、ことばで感じ、ことばで発信します。国語科は、ことばを学び、ことばを探究する教科です。国語教育コースでは、教員としてそれを実現するための知見が得られます。

学びは、これまでもこれからもことばと切り離せません。幼児期から今までの学びをふりかえり、ことばが果たしてきた役割を考えましょう。あすの国語教育の扉をひらくのは、あなたです。

国語教育コースでは、国語学・国文学(近現代文学および古典文学)・国語教育学・書道について学びます。2016年度からは、日本語を母語としない人を対象とした日本語教育も学べます。小学校一種・二種、中学校一種・二種(国語)、高等学校一種(国語)免許が得られます。必要な単位を取得すれば、幼稚園一種・学校図書館司書教諭の免許を取ることもできます。

国語学(日本語学) [日本語の文法、語彙、表記、音声、アクセント、方言]

「元気に働く」と「元気で働く」の違いは?「隣の客は良く柿食う客だ」等の早口ことばは、どうして言いにくいのか?日常的な具体例を挙げつつ、言語分析の方法を身につけ、現代日本語の特徴について考察を深めます。

国語教育学

子どもと教員と教材の一期一会の切り結びが、わたしたちの学びの場です。国語科とは何をどのように学ぶ教科なのか、小学校、中学校、高校の授業を実際に見て考えます。子どもも教員も成長できる授業をめざします。

日本語教育

日本語教育の基礎知識を学び、日本語教授法や言語習得、日本の文化・社会や異文化への理解を深めます。



書道の授業



小学校での授業



国語科シンポジウム



小学校
多文化クラブ活動の準備

国文学

古典文学については、古典文学作品を読み、その当時の人々の生活や社会の状況を含め考え、作品の独創性を考察します。時代は主に平安・鎌倉時代の作品を扱います。古代・中世の日本文化を知ることは、ものの見方も広がります。

また、近代文学については、明治から現代までの文学作品を対象として、作品が書かれた社会的背景も含めてさまざまな角度から分析・考察します。時代とともに変化する教科書収録作品に対応するため、教材研究の力をつけます。

書道

毛筆特技では、楷書や行書などの基本的な運筆を学びます(硬筆も取り上げます)。古典臨書も行いながら、書道の歴史文化にも触れ、鑑賞力も養います。書道を通して、文字文化のおもしろさを感じ取ってみましょう。

社会科教育コース



募集人員 初等教育選修(前期8名、後期2名)、
中等教育選修(前期5名、後期2名)

社会を見つめる知と技をみがき、社会科を専門とする教員として必要な「教科力」を身に付ける

社会科(地理歴史科・公民科)教育を専門とする教員に必要な能力である教科力を身に付けるため、社会諸科学を中心とした学問を専門的に研究し、教育実践にいかすために5つの分野について学びます。

社会科教育コースには、中学・高校の頃から社会科が好きだった学生が集まっています。教員としての専門性を高めるため、学生は社会科学、歴史学、地理学、哲学・倫理学いずれかの専攻に所属し、学問を背景とした教育・研究活動に日々励むことになります。

一年次は共通して社会科共通のオリエンテーション科目を、二年次から本格的に専攻を中心とする専門教育科目を、三年次は社会科授業についての教科教育法を履修します。また、卒業論文のテーマを選定し、四年次に卒業論文の作成に取り組みます。

教員に必要な資質・能力には時代を超えて変わらないものもある一方で、とくに現代社会においては、時代の変化に即応する柔軟性も求められています。社会科教育コースでは、そうした人間力を身につけるべく、学生と教員がともに学んでいます。

社会科学(政治学、経済学)

新聞やニュースで報道される現代社会のさまざまな問題を政治学的、経済学的な視点から取りあげ、それらを考察する能力とそれらを教育の現場で活用する技術の習得を目指します。

歴史学(日本史学、東洋史学)

歴史の研究を通して、社会の成り立ち・仕組みについて学びます。日本史・東洋史の各ゼミでは、史料や最新の研究成果を読むことで、教科書記述の理解を深め、よりよい授業ができる実践力の育成を目指します。

地理学(自然地理学)

国内外の地域を対象に、人間と自然にかかわる幅広い領域について研究します。フィールドワークや様々な実験を通して、地理学をはじめ環境・防災教育も視野に入れた地理教育の指導を行います。

哲学・倫理学(哲学)

哲学・倫理学の基本的な諸概念や諸問題を取り上げ、検討することを通して、社会の諸事象を多角的な観点から捉え、批判的に分析するために必要な思考力と表現力を養います。

社会科教育学(社会科教育)

社会科の学校現場の教育実践を意識した調査・研究を、ゼミの垣根を越えて行います。教育実習の教材研究や社会科教育の理論や優れた実践研究を取り上げ、教員と学生で分析・検討します。



プレゼンテーション力を
育成する授業



ゼミ卒業発表会



ゼミ研修合宿



社会科教職ゼミナー

教員の声



守田 庸一 教授
もりた よういち
【担当科目】
初等教科教育法(国語)、
国語科教育法、
国語教育ゼミナール など
【専門分野】
国語教育学

みなさんは、どんな国語の授業を覚えていますか?教科書の文章を読んだこと、文法を勉強したこと、漢字の読み書きを教わったこと…。そうした授業をするために、先生には、日本語とその表現についての深く広い知識が求められます。また、一人ひとりの子どもには様々な背景があることを理解し、個の言語能力を把握した上で、状況に応じて多様な指導方法を実践できることも大切です。国語教育コースでは、日本語にかかわる専門的な内容を学習するとともに、国語の授業のありかたを考えたり、実際の授業を参観したり行なったりすることなどを通じて、国語科を担う教員に必要な知識と力量を得られます。

学生の声



西尾 咲穂 さん
にしお さほ

私たちは日々「聞く・話す・読む・書く」という言語活動を通して国語力を育んでいます。この力はすべての教科に結び付き、学びの基盤となる重要なものだと思います。国語教育コースでは、これからの時代に必要な国語力をつけるためにどのような教育を目指していくべきかを仲間と一緒に深く考えたり、話し合ったりすることができます。また、私たちが今まで学んできた教材(『スイミー』、『モチモチの木』、『走れメロス』等)を分析し、教師の立場から教材の意味や指導法を考えていくことによって、今まで気づくことができなかった教材の新たな魅力を発見する事ができて面白いです。毎年開催される「国語科シンポジウム」では、現職の先生方から直接話を聞き、意見交換をすることで、現在の教育現場の課題と向き合いながら学びを深めていくことができます。他学年と交流できるイベントもあるため、横のつながりはもちろん、縦のつながりも強く、とても仲が良いコースです。私はここで切磋琢磨しながら共に成長していくことができる仲間に出会うことができました。ぜひ私たちと一緒に国語教育コースで学び、充実した大学生活を送りましょう!

教員の声



秋元 ひろと 教授
あきもと ひろと
【担当科目】
哲学概論、哲学特殊講義、
哲学演習
【専門分野】
哲学

社会の状況は日々めぐるしく変化しています。私たちは激動の社会を生き抜くために、その流れに柔軟に適応し、強靱な社会を構築していく必要があります。そのため学校教育に携わる人たちも、社会の変化を敏感に捉え、教育活動に反映させていくことが求められています。社会科教育コースでは、高校までの科目選択にとらわれず、バランスの取れた社会科の総合力を養うと同時に、ゼミに所属して調査・研究活動を行うことで、専門性の高い「教科力」の習得を目指しています。そこでは多彩なカリキュラムが用意され、政治や経済といった現代的な諸課題、地理・歴史や哲学のような空間的・時間的な視点や思想的営為など、様々な角度から社会について学べるようになっていきます。これらを通し、現代社会を力強く生き抜き、教育界に適應できる、社会科や学校現場を担う力量を持った人材を育成しています。

学生の声



那須 海太 さん
なす かいた
滋賀県立虎姫高等学校出身

こんにちは、教育学部社会科教育コースです。このコースは名前の通り社会科の教員を目指す学生が多く在籍しています。このコースの特徴として一番挙げられるのが、大学の醍醐味であるゼミが2年生から始まるという点です。日本史・東洋史・地理・哲学倫理・経済・政治の6つのゼミに分かれて勉強します。1つの分野がおよそ10人弱の学生と教員で構成されており、先輩・後輩、先生方との繋がりが強くなるのも他のコースと異なる点です。社会科コース特有の授業として、1年生の前期後期にわたって行われる社会科入門というものがあります。ここでは、高校迄では学ぶことが出来ない、また大学や社会で求められる会話力や文章力を鍛えられます。ディベートやスピーチ、作文等が主な内容です。皆さんと一緒に社会科で成長しませんか。

取得できる
免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(国語)の免許を取得します。ただし選修に関わらず、多くの学生が両免許を取得しています。また、高校(国語)の免許を取得する学生も多くいます。その他、特別支援や幼稚園、他教科、司書の免許を取得することも可能な場合があります。

取得できる
免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(社会科)の免許を取得します。ただし選修に関わらず、ほとんどの学生が両免許を取得しているほか、計画的履修を心がけることにより、高校(地歴・公民)の免許や、その他の免許(特別支援など)を取得する学生もいます。

数学教育コース



募集人員 初等教育選修(前期11名)、
中等教育選修(前期10名)

明るく元気に、そして楽しく数学を勉強したい 小中高の教員志望の人に向いているコースです

4年間をかけて数学を系統的に学びます。
また近隣の小中学校で児童や生徒とふれあったり、現職の先生のお話を聴いたりして、教師としての実践的な指導方法も学びます。

少人数ならではの縦と横のつながりが強く、にぎやかな雰囲気の特徴です。成績評価の厳しい先生が多く、試験前に学生は猛勉強をします。宿題の量も多いですが、分からない問題があってもみんなで助け合い、先生も親切に面倒を見てくれますから、数学の実力を伸ばせます。

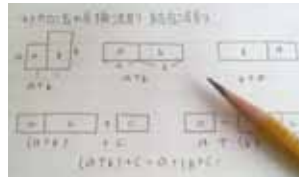
ここで数学を勉強しませんか。教員採用試験の合格率も良好です。



「さあ、一緒に楽しもう!」教師になろう!



先生と生徒の生活



「数学科教育法のノート」



入学者向けに実施される

代数学

方程式の話は高校までで終了、ではない。これは終わりのない物語です。この物語を読み解く過程で「群」や「ベクトル空間」などの重要性がわかってきました。こういうものも含めて方程式とその周辺を研究するのが代数という分野です。

解析学

自然現象を科学的に理解しようとしたとき、高度な微積分の知識が必要となります。このため、微積分学を多変数に拡張したもの、変数の範囲を複素数に広げたもの、より一般的な関数も扱える積分論などを学生が学んでいます。

幾何学

幾何というとは皆さんは直線、図形、三角形、丸、楕円などを思い浮かべるのではないのでしょうか。黒板の上では、私たちが普通に考えるものですね。では、地球上、つまり曲った面の上での直線、三角形、丸とは何なのでしょう。一緒に考えてみませんか。

応用数学

確率論・統計学では、高校で学んだ確率の考え方を深化させた公理的確率論と、その応用であるデータ解析・数理統計学を学びます。コンピュータ科目では、プログラミングの基礎から応用まで学び、論理的思考力や問題解決力を高めます。

数学教育学

学校現場における算数・数学教育の現状と課題を見つめ、教材の開発や指導原理の考察、指導事例の検討、評価のあり方など、算数・数学教育の「目的・内容・方法」を理論的・実践的に探究します。

教員の声



森山 貴之 准教授
もりやま たかひこ
【担当科目】
基礎微積分学、
幾何学概論、幾何学要論
【専門分野】
微分幾何学、
変形理論

このコースは数学、算数の教員養成のためのコースですが、教師になるための指導、実習だけでなく、大学の数学についてもきっちりと学修を行います。大学の数学は高校までの数学の次のステップですが、それは単なる延長ではなく、新しい概念や考え方からはじめ戸惑います。また、全体的に数学の講義の単位修得の基準が厳しめであり、それなりの努力が必要です。それでも、教師を目指す者同士で助け合い、時には議論などし、どうにか乗り越えていく。そのようなコースです。もし、教師になる意志と「数学を勉強したい」という思いがあるなら、私たちは歓迎します。ちなみに教員採用試験の合格率は良いです。

学生の声



山田 裕朗 さん
やまだ ゆうじ
三重県立松阪高等学校出身

「数学教育コース」では、様々な単元の算数・数学を通して、教育や子どもたちについて学ぶことができます。具体的には「解析学」、「代数学」、「幾何学」、「応用数学」、「数学教育学」を学修します。もちろん難しいものも少なくないですが、高校で3年間数学を勉強しておく、きっと大学数学の理解に役立ちます。また、教育学部では子どもについての理解を深めることができます。教育学部としての授業で、子どもの特性や子どもへの対応を学びます。算数・数学に関する授業でも、児童・生徒に伝わりやすい教え方や解き方を考える時間があります。数学に自信がない、教員になれるか分からないという人もいるかもしれませんが、「数学教育コース」は人数が少なく、同期とのつながりが強いコースです。また、縦のつながりも強く、ポウリング大会やスポーツ大会も行われています。そのため、分からないことや不安なことがあっても手厚く周りが支えてくれます。明るく楽しく数学を学んで教員になりたいみなさんを「数学教育コース」でお待ちしています!

取得できる 免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(数学)の免許を取得します。どちらの選修の学生も、必要な単位を修得すれば両免許を取得できます。また必要な単位を修得して高校(数学)の免許を取得できます。さらに必要な単位を修得して高校(情報)の免許が取得できるように配慮されています。

理科教育コース



募集人員 初等教育選修(前期10名)、
中等教育選修(前期9名)

日本と子どもの未来を拓く理科教師になる4年間

小・中・高等学校における理科教育の方法や、その背景となる科学知識の習得のために、理科教育コースには5分野・6研究室があります。理科教育コースの学生は2年次からどれか一つの研究室に所属し、各分野の専門知識の習得と同時に、学校教員になるための教育技能を身につけます。本コースでは教育実習以外にも、県内の小学生向けの科学教室などの教育実践の機会があります。学生はこのような催しなどに参加し、子どもたちに理科の面白さを伝える技能を積極的に磨いています。最近3年間の卒業生56名のうち、37名が教員(小学校17名、中学校18名、高校2名)となっています。

小・中・高等学校における理科教育の方法や、その背景となる科学知識の習得のために、理科教育コースには、右記の5分野・6研究室があります。理科教育コースの学生は2年次からどれか一つの研究室に所属し、各分野の専門知識の習得と同時に学校教員になるための教育技能を身につけます。本コースでは教育実習以外にも、県内の小学生向けの科学教室などの教育実践の機会があります。学生はこのような催しに数多く参加し、子どもたちに理科の面白さを伝える技能を積極的に磨いています。

本コースでは小学校一種・二種、中学校(理科)一種・二種、高等学校(理科)一種免許を得られます。必要な単位を取得すれば、幼稚園一種免許なども取ることができます。



出前科学教室



理科実験(物理)



教育実習



野外実習

物理学

力学、電磁気学の初歩を学んだ後、熱力学、振動・波動、現代物理学等の講義を通して物理の考え方を身につけます。また、実験科目を通して、実験の方法論やコンピュータを用いたデータ解析の方法等を学びます。

化学

物質の性質を理解するための基礎理論から有機・無機物質の性質までを、講義・実験・演習を通して体系的に学修します。また、実験では基本的な操作法や安全に実験をする方法の習得にも力を入れています。

生物学

分子レベルから生物群集レベルまでの基礎知識と理解のために、講義・実験・演習・卒業研究を体系的に学修します。また、身近な動植物を扱った観察・飼育・栽培・調査や、教材開発にも力を入れています。

地学

宇宙科学、地質学・古生物学等の地学の諸分野を中心に高校で地学を履修していないことを念頭に、講義・実験・演習を通して体系的に学修します。野外実習(天体観測や地層観察・化石採取)にも力を入れています。

理科教育

理科の目的、科学の本質、子どもの自然認識などの基礎的な内容をふまえた上で、子ども主体の問題解決(探究)、単元構想、教材研究、探究過程での理科の見方や考え方の駆動、評価、STEAM教育等、理科の学び方や授業づくりについて学修します。

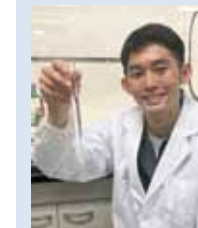
教員の声



栗原 行人 教授
くりはら ゆきと
【担当科目】
地学講義II、地学実験、
地学実習II など
【専門分野】
地質学、古生物学

皆さんは高校で物理、化学、生物、地学のうちのいくつかを学んでいると思いますが、小中学校の理科では4分野すべてを教える必要があります。そのため、本コースでは理科4分野と理科教育学に関する講義・実験を通じて理科全般の基礎力を身につけた上で、専門的な分野の深い知識と指導力を身につけることができるようなカリキュラムとなっています。また、子ども向けの科学教室や教育実習を通して、子どもに理科を教えるための技能を身につけることができます。本コースでは自然科学に興味があり、子どもたちに理科の不思議さや面白さを伝えたいという希望を持つ学生を求めています。

学生の声



小西 柊広 さん
こにし しゅうま

理科教育コースでは2年生で物理・生物・地学・化学の4分野の実験を行います。野外での植物観察や地質調査、長野県の天文観測所での実習など大学の外に出て、実験・観察を行うこともあります。また、3年生、4年生では自分が所属している研究室(物理、生物、地質、天文、化学、理科教育のいずれか)で、自分が興味のあることについて研究・実験を行います。このような体験を通して、小中学校の時に感じていた目の前でどのようなことが起こるのかというドキドキや、実験が上手くできたときや新しい発見ができたときの感動を思い出すことができます。また、小中学校の時とは違い、研究・実験を通して学ぶだけでなく、理科教育コースでは教える立場として、どのようにすれば、子どもたちが楽しく、興味深く、安全に学ぶことができるかを考えていきます。理科教育コースで子どもの時に忘れてしまったワクワクを思い出し、理科教育コースでしかできない体験を私たちと一緒にしてみませんか?

取得できる 免許

小学校一種・二種、中学校(理科)一種・二種、高等学校(理科)一種免許を得られます。必要な単位を修得すれば、幼稚園一種免許や特別支援学校の免許等も取ることができます。

音楽教育コース



募集人員 初等教育選修(前期4名、後期3名)、
中等教育選修(前期3名)

音楽の本当の面白さを 子ども達に伝えることのできる教師になるために

深く広い専門的知識と、理性に根ざした豊かな感性、そして科学的視点を重視した質の高い指導技術を備えた教員の養成を目指しています。
また、生涯学習を支援できる柔軟な思考・行動力のある人材の育成を図ります。

ピアノをはじめとする器楽の演奏法、声楽における発声及び歌唱法、それらを基盤とした合奏・合唱及び指揮法と、音楽理論とその発展にある作曲法を体系的に修めることによって、音楽の実技系各分野における専門性を高めます。

また、日本音楽の歴史や演奏法、音楽史などを学ぶことにより、様々な価値観や美学に触れ、個性的で柔軟な発想を育みます。さらに、講義やゼミナールで音楽教育学の理論や授業の構成法を学び、授業観察や模擬授業を通して実践的な指導力を身につけます。

小学校一種免許状、中学校一種免許状(音楽)、高校一種免許状(音楽)を取得することができます。努力次第では、他校種・他教科の免許状の取得も可能です。

音楽教育学

教育に関する理論を基盤として、教育課程の構造、授業の構成、教材に関する解釈等について学びます。また、音楽の各分野に関する基礎的知識および技能に基づき、総合的な実践力を身につけます。

作曲・音楽理論

音楽を指導する立場にある者は、音楽の構造・成り立ちについて知っていなければなりません。作品に接するにあたり、どのように考えたらよいかを基本から取り組むために、「和声法」「作曲法」等の授業があります。

器楽

ピアノに触れることで音楽と親しみ、西洋音楽のバロックから近・現代までの作品の演奏研究を行うとともに、音楽を指導するスキルを身に付けます。また、演奏表現することの喜びを通して、互いに持てる力を育て、これからの音楽教育に求められるものについて、ともに学びます。

声楽

基礎発声として裏声と表声の分離・強化と融合および発音との協調運動による声の作りの理論と実践を、そして段階に合わせた様々な歌曲や教科書に掲載されている歌などを、原則グループ形式の授業で学生相互が学び合います。



教員の声



森川 孝太郎 教授
もりかわ こうたろう
【担当科目】
和声法、作曲法、指揮法、
合奏 など
【専門分野】
作曲・音楽理論

例えば、八長調のドミソの和音とへ長調のドミソの和音は同じドミソでも音楽の中において(音楽作品の中において)全く役割が異なります。八長調のドミソの和音は、次に別の和音に続くこともあればそこで終えることもあるのに対し、へ長調のドミソの和音は、次に別の和音に続くとする意志があるのです。音自身が意思を持っているように感じることに気づくことは、音楽の不思議に近づく一歩です。
音楽教育コースでは音楽における各専門分野と教育を学び、教育現場などで支援活動等を実践することにより、「音楽」を子どもたちに伝えることのできる人材の育成を目指しています。ほぼ自由に使用できる全室冷暖房完備の48室ある練習室、37台のアップライトピアノや6台のグランドピアノ、多種多様な教育楽器、そして歌声があふれる音楽棟で、一緒に音楽をし、音楽や教育について語りましょう。

学生の声



上田 菜織 さん
うえだ なおり

音楽教育コースでは、ピアノや声楽などの実技科目や作曲・音楽理論、音楽教育に関する授業などを通して、音楽について専門的に学びます。授業の中で初めて学ぶこともあり、4年間で多くの学びを得ることができます。小学校や中学校での実践活動もあり、実際の音楽の授業の様子を知り、児童・生徒と関わることができます。また、1学年の人数が少ないため、同じ志を持った仲間たちと協力して大学生活を送ることができます。同期全員で実技の授業を受け、互いに高め合っています。将来教員になりたい、授業を通して音楽の楽しさを伝えたいと考えている方、ぜひ私たちと共に音楽教育コースで学びませんか？

取得できる
免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(音楽)の免許を取得します。
音楽教育コースでは、ほとんどの学生が選修に関わらず両方の免許を取得しています。また、高校(音楽)の免許を取得する学生もいます。
音楽教育コースは、小学校と中学校(音楽)の免許を取得したうえで中学校(他教科)や幼稚園、特別支援など他校種の免許を取得する学生もいます。

美術教育コース



募集人員 初等教育選修(前期6名)、
中等教育選修(前期3名)

美術の力と魅力! それを知りそれを活かす教育の途がここにあります

美術の制作と理論の追究、美術教育の実践と理論の探究、というそれぞれの力量を高め統合した専門的能力を身につけるとともに、学校や社会教育現場で求められる高度な実践力を備えた教育者を養成します。

教育学部の特色を生かして制作と理論の両方の力量を獲得できるのが特色です。1年次から絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論の各分野の専門的な制作と理論が学べます。3年次からは、卒業制作が卒業論文のいずれかのコースを選択し、専門的な研究を行います。

卒業生の多くは、小学校・中学校(美術)・高等学校(美術)の教員になります。



教員の声



関 俊一 教授
せき しゅんいち
【担当科目】
絵画、版画、絵画演習 など
【専門分野】
絵画

美術教育コースでは、美術と美術教育を学ぶための充実したカリキュラムが組まれています。1年次は美術館での子供の活動の企画・実施、2年次、3年次は主に作品制作、4年次は卒業研究と美術・美術教育の様々な経験から、実践力と理論を発揮できる力を身につけます。それを支えるのが1年次から始まる美術の専門分野(絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史・美術理論)の専門的な学習と教科教育法の授業と教育実習の美術教育の学びであることは言うまでもありません。美術棟の各教室で専門分野の実技を基礎から学び、作品を制作することができます。学年を超えた繋がりや、学生と教員の懇切な関わりも魅力の一つです。

取得できる
免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(美術)の免許を取得します。
その他、必要な単位を修得して、選修に関わらず小・中両方の免許や、高校(美術)、中学校(他教科)、特別支援学校、幼稚園の免許や、学芸員資格が取得できます。



絵画

デッサン、透明水彩による着彩、油彩による西洋古典絵画技法、アクリルエマルジョンを用いた混合技法など様々な表現を体験し、多種多様な画材と素材に臨機応変に対応できる自由な発想力を養い、各自の表現のバリエーションを広げていきます。

彫刻

個々の学生の資質に合わせた幅広い分野の立体造形の授業を行っています。実技制作と平行してスライドレクチャーを行い、表現についての知識を深め、時代や歴史的な観点をふまえたうえで自己表現を目指しています。

デザイン

基礎造形のうち平面及び立体の構成を中心とした課題や、CGを使った実践的なデザインワークから、デザインに必要な理論、思考法、技法、色彩学を学び、デザインとは何か、作品制作を通して考察していきます。

美術理論・美術史

美術教育で重視されつつある「鑑賞」という視点から、美術の理念・概念・歴史などを学修します。それによって、美術を生み出すものが、単に感性ではなく、様式の変化や時代精神、民族性、あるいは個人の才能などさまざまな要因によることを学びます。

美術教育

美術教育のありようには決まった答えはありません。それは、子どもと教師が共に創造していくのです。この高度な実践的指導力を、講義や演習による理論研究と、実地や実習による実践研究との結合により獲得していきます。

保健体育コース



募集人員 初等教育選修(前期6名、後期3名)、
中等教育選修(前期5名、後期3名)

健康で運動好きな子どもを育てるために、 保健体育に関する様々な分野の学習をします

運動の楽しさやおもしろさ、精一杯体を動かすことへの気持ちよさを味わえる、健康や体に関する正しい知識と実践力を持つ子ども。
本コースではそのような児童、生徒を育てる教員の養成を目指しています。

本コースでは保健体育に関する専門的な知識と実技能力を基礎として、高い授業実践力を養うための学習をします。専門的な知識を高める学問分野には保健体育科教育学、体育・スポーツ学、運動学、学校保健の各分野があります。取得可能な免許は小学校教諭、中学校教諭(保健体育)、高等学校教諭(保健体育)等です。

保健体育科教育学

学校教育における体育・保健体育の授業をどのようにデザインし、展開し、省察していくかということについて学びます。教材研究、授業観察、授業研究(模擬授業)を通して、保健体育科教育学の目的、内容、方法等を学び、体育担当教員としての専門的資質と実践的指導力を培っていきます。

体育・スポーツ学

体育やスポーツについて心理・社会・歴史・哲学などの視点から追求していきます。例えば実力を発揮する方法、人間関係や集団・組織のマネジメントのあり方や指導・支援方法、スポーツ振興政策の仕組みや現状、体育やスポーツとは何か、体育やスポーツの変遷等について紐解きます。

運動学

体や運動を科学する方法について学びます。体の機能や仕組みを理解し、様々な身体運動により体がどのように変化するか、スポーツの技術を習得する方法や指導法、運動のメカニズムを解明する方法や、各種スポーツの基礎となる多様なトレーニングの科学的方法等について学びます。

学校保健

子どもから成人を対象とした健康科学について学びます。例えば児童の運動量が減少している問題や成人の生活習慣病と運動の関連性を理解し、疾病予防や対策について考えます。



教員の声



水藤 弘史 教授
すいどうひろし
【担当科目】
運動方法学、水泳 など
【専門分野】
スポーツ・バイオメカニクス、
水泳の指導法

保健体育コースの学生は、保健体育の専門家として教員を目指す人たちが多数を占めていますが、実際には小学校教員になる人が多いようです。小学校において保健体育の専門性を持った教員は子どもの発育・発達に即した体力、運動能力の向上という観点から重要な存在だと考えます。また、中学、高校の保健体育教員を目指すには保健体育の専門家として、より良い授業ができることが不可欠です。どのような校種の教員を目指すにしても、本学での様々な授業、実技・実習、実践活動を通して専門的な理論に裏付けられた実技力・実践力を養いましょう。さらに、高度な専門性を身に付けるために大学院に進学する道もあります。

学生の声



河邨 有里子 さん
かわむら ゆりこ

保健体育コースでは、保健体育授業に関する高い実践力を身につけることができることはもちろん、科学的根拠に基づいたスポーツや健康に関する知識を身につけ、使える知識にするにはどうすれば良いかまで、授業で深く考えながら学ぶことができ、とても面白いです。また、三重大大学の学部学科よりも、学年を超えて仲が良く、とにかく明るくて笑顔が絶えないのも保健体育コースの特徴です。駅伝大会やバレーボール大会などコース内でのスポーツイベントもあります。私は、楽しむときは全力で楽しみ、やるときは切磋琢磨し合い、刺激を受けながら、成長できる最高の大切な仲間に出会うことができました。体を動かすことが好きというあなたは、是非私たちと一緒に明るく元気な大学生活を送りましょう!

取得できる 免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(保健体育)の免許を取得します。ただし選修に関わらず、多くの学生が両免許を取得しています。また、高校(保健体育)の免許や幼稚園、他教科(中学校)の免許を取得する学生もいます。

技術・ものづくり教育コース



募集人員 初等教育選修(前期5名)、
中等教育選修(前期4名、推薦1名)

ものづくりの楽しさと、 技術の素晴らしさを伝えることのできる教師を目指して

将来、技術立国日本を支える子どもたちに、ものづくりの楽しさと、技術の素晴らしさを伝えることのできる教師を目指し、
技術教育を支える学問の理論と技能を総合的に学修します。

技術教育は、技術立国日本を支えるだけでなく、子どもたちの工夫創造の能力や実践的態度の育成など、人間形成の上でも大きな役割を果たしています。小学校におけるものづくりを含め、このような技術教育について学ぶのが技術・ものづくり教育コースです。本コースでは2年次より技術教育、電気工学、機械工学の3つの研究室のいずれかに所属して専門性を高めます。

生活に密着する科学としての技術・ものづくり教育を、その理論・実践両面からのアプローチを通して深めていくとともに、それを支える材料加工、機械、電気、生物育成、情報に関する専門的な教育・研究を探究していきます。

技術科教育法

「技術」や「ものづくり」を対象とした教育における、教材や学習指導法、教授技術について実践的に学修します。

材料と加工

木材、金属、プラスチックと、目的により使用する材料も、加工法も異なります。また、材料の再資源化や廃棄物の発生抑制など、自然環境の保全等にも関係しています。このような材料と加工に関する技術について学修します。

機械

我々の身の回りにある工業製品全ての設計・製造・稼働・メンテナンスに関わる事項、またそれに必要となる基礎理論と応用技術について学修します。

電気

電気回路、電磁気の基礎をまず押さえた上で、講義と実験実習を通じて発電から最終的な利用までのエネルギー変換、身近なものから様々な産業で工夫・応用されている電気にもつわる事項について学修します。

生物育成

食料、バイオエタノールなどの燃料、木材の生産、花壇や緑地等の生活環境の整備など、生物育成が多くの役割をもつことについて実習を通して学修します。

情報

情報に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させ、多くの産業を支えています。このような内容を指導できるよう、理論と実践を通して学修します。



教員の声



中西 康雅 教授
なかにし やすまさ
【担当科目】
工業数学、材料・加工学、
木材加工実習及び製図、
情報工学概論 など
【専門分野】
電気工学、機械工学、
材料加工学、技術教育学

携帯電話などの目に見える製品だけでなく、材料技術や情報技術など、技術は私たちの生活を豊かにします。その反面、環境問題や倫理面での課題を生むこともあります。このように、技術が私たちの生活と深く関わるからこそ、技術・ものづくり教育コースでは、人と技術の在り方について専門的に学び、技術に関する教育はどうあるべきかを考え創造します。「どうなっているんだろう」という疑問、「こんなものがあつたらいいな」という願望、そういった素朴な想いから技術に関する学びが始まります。技術教育について一緒に学びませんか。

学生の声



北原 聖大 さん
きたはら まさひろ

技術・ものづくり教育コースの授業では、理論を学んだり、実際に自分の手を動かして作りあげたり、教育実践を通して学ぶことができます。1年次に技術教育の基礎的内容について学び、2年次からはゼミに配属されます。私が所属している電気工学研究室は、小学生を対象とした工作教室などを行っており、授業外でも子どもたちと触れ合える機会があるのが魅力の一つです。授業では、自分オリジナルのスピーカーを作ったり、ハンモックを作ったりと大変ですが楽しいものが多いです。技術科に所属している多くの学生は、技術の免許だけでなく、他教科の免許取得も目指しているため、身近に切磋琢磨し合える仲間がいることも刺激になります。教員を目指したい方、楽しい大学生活を送りたい方は、ぜひ技術・ものづくり教育コースで一緒に学びましょう!

取得できる 免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(技術)の免許を取得します。ただし選修に関わらず、多くの学生が両免許を取得しています。また、必要な単位を修得することで工業や高校(情報)などの他校種・他教科の教員免許も取得可能です。

家政教育コース



募集人員 初等教育選修(前期5名、推薦3名)、
中等教育選修(前期5名)

広い視野から人間の生活と環境を探究できる教員になるために

家政教育コースでは、日々の家庭生活や地域生活の中の様々な問題を、広範な視点と分野から、理論的・実践的に研究し、それらを家庭科に生かすことで、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を担える家庭科教員になることをめざして学びます。

家政教育コースは、家庭科教育、家庭経営学、被服学、食物学、住居学、保育学の6つの領域からなり、文系・理系どちらの分野の科目も必要なコースです。ほとんどの学生が小学校や中学校・高等学校家庭科の教員を目指しています。また、大学院へ進学し、家庭科の知識・技能を深める学生もいます。

家庭科教育

家庭科教育の理論と専門領域の知識を統合し、よりよい授業実践ができる力を育成します。主な授業科目は、家庭科教育法・初等教科教育法(家庭)です。

家庭経営学

システムとしての生活が安定するための知識を学び、豊かで創造的な生活について考えます。主な授業科目は、生活経営学概論・家族関係論・消費者教育論です。

被服学

衣生活に関する知識(デザイン・素材・設計・管理・衛生など)を学び、実生活に役立つ教育へ導くことを考えます。主な授業科目は、被服学概論・被服構成学・被服実習・衣生活科学です。

食物学

栄養・食品・調理に関する知識を学び、豊かな食生活について考えます。主な授業科目は、食物学概論・食生活論・調理実習・食物学実験です。

住居学

住空間・住生活に関する知識を学び、豊かな住生活について考えます。主な授業科目は、住居学概論・住居学実習です。

保育学

子どもに対する基本的な理解と関わり方を学び、家庭や社会における子育てについて考えます。主な授業科目は、保育学概論・家庭看護学です。



英語教育コース



募集人員 初等教育選修(前期6名)、
中等教育選修(前期7名)

英語教育コースはグローバル化にふさわしい資質と能力を持った英語教員を養成するコースです

英語教育コースでは、英語の実践的能力を身につけるとともに、英語の歴史的・社会的背景、英語圏の文学や文化、英語教育法を総合的に学び、確かな英語力、言語感覚、グローバルな感覚の習得を目的としています。

英語教育コースのカリキュラムは英語学・英語文学・英語教育・異文化理解・英語コミュニケーションの分野からなっており、さまざまな側面から英語に親しんでいきます。英語コミュニケーションの分野では英語会話や英作文など実用英語のスキルを習得し、英語学、英語文学、英語教育、異文化理解などの専門分野では、講義と演習を通して英語教員に求められる専門的知識を身につけていきます。インターネットを用いて米国の大学との遠隔授業も行っています。

英語学

英語学の分野では、英語の仕組みや動きを実例の観察・分析を通して多角的に研究し、その成果を中学校・高等学校における指導に活かすことをめざします。また、英語が実際に使われている状況、英語が今日「国際共通語」と呼ばれるに至った経緯などを、さまざまな文献資料を通して学んでいきます。

英語教育

英語教育の分野では、言語習得理論から小学校・中学校・高等学校における具体的な英語指導法まで、英語教育全般にかかわる事項を学びます。また、学習指導案作成・模擬授業や学校訪問を通して授業実践力も学びます。

英語文学

英語文学の分野では、英語圏の有名な詩や小説や劇などの文学作品を原書等で読み、英語文学を体験します。具体的な作品読解を通して英語文学に親しむだけでなく、その背景となっている英米の文化や世界観にも触れ、同時に文学テキストの分析方法についても理解を深めます。

異文化理解

異文化理解の分野では、異文化コミュニケーション全般の基礎知識を習得すると共に、英語を中心とする言語表現、言語行動の背後にある英米文化における考え方、信念、理念、価値観を学び、コミュニケーション上の異文化理解を深めます。



教員の声



村田 晋太郎 准教授
むらた しんたろう
【担当科目】
生活経営学概論、家族関係論、
家庭科教育法
【専門分野】
生活経営学、家族関係学、
家庭科教育学

家庭科では、家庭経営、衣食住、保育等の領域の学習を通して、一人一人の人間が自己実現をしながらよりよい生活や人生を送ることについて学びます。また生活を時間的・空間的に幅広く捉え、少子高齢化、環境問題、消費者問題などの社会的課題を視野に入れながら、生活と環境についても広い視野から学びます。そして、実習や実験などの体験的に学ぶ授業、講義や演習などの理論的に深く探求する授業を通して、学んだことを実生活で応用できる実践力や、生活環境を変えることのできる力を持った子どもを育成できるような実力を備えた家庭科教員を育成します。家庭科の深い学びが、きっとあなたの生活や人生も変えてくれることと思います。

学生の声



森井 夏末 さん
もりい なつみ

家政教育コースでは、私たちの日常生活の基盤である衣食住や家族との関わりなどの「家庭科」に関する専門的な学修をします。調理や被服などの実践的・体験的な活動や家庭経済・消費生活や環境など幅広い内容について専門的に学ぶことができるので、家庭科教員に必要とされる資質・能力を十分に身に付けられます。また、子どもを大学に招いてのイベントなどを企画・運営する経験もできます。このイベントは、コース全体の学生が関わって活動するため、他学年の学生とも学ぶことができます。教員になりたい方や家庭科に興味がある方は、私たちと一緒に家政教育コースで楽しく学んでみませんか?

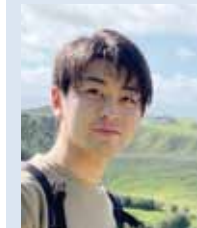
教員の声



金子 淳 教授
かねこ じゅん
【担当科目】
英語学概論、
英語文学講義演習Ⅱ(アメリカ)、
英作文Ⅵ(ペーパーライティング)など
【専門分野】
英語文学、英語教育

英語が好きで、英語力を高めたい、英語という言葉や英米文化に関心があり、英語の諸相について深く学びたいという意欲のある人をお待ちしています。将来、英語の世界の魅力、英語を学ぶ楽しさや意義を、身を持って児童・生徒に伝えていけるような先生を目指しませんか。英語教育コースでは英語学、英語文学の専門知識に基づき英語を科学や芸術として扱える力を培い、異文化理解を深めます。さらには言語習得の知識に裏打ちされた英語科教育法を学びます。豊かな英語の世界観を持った先生がたくさん巣立ってほしいことを願っています。

学生の声



奥山 達行 さん
おくやま たつゆき

現在、英語教育の需要が高まっていることを知っていますか?近年、小学校・中学校で「外国語活動」が始まり、高学年では「教科」としての外国語を教えることになっています。「英語教育コース」には、その英語教育の将来を担おうと、「志」の高い学生が集まっています。ネイティブの先生の授業は、将来私たちがオールイングリッシュで授業を行えるよう、全て英語で展開されています。そのため、4技能をバランス良く伸ばすことができるとともに、常に子どもたちに英語でわかりやすく説明する方法を考えることができ、授業の瞬間瞬間が将来に結びつきます。また、分野は大きく4つに分かれており、今も変化する英語を学ぶ「英語学」、新たな時代に対応し続ける「英語教育」、世界で愛される文学に親しむ「英語文学」、世界を知り日本も知る「異文化理解」などがあります。大学の留学制度を活かして海外(ニュージーランド等)の学校を訪れ、世界と日本の教育を比較することや、県内の幼稚園や小学校での英語活動を通して、地域の繋がりを大切にしているのも三重大学の特徴です。ぜひ「英語教育コース」に入って、一緒に英語教育の未来を創りましょう!

取得できる 免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(家庭)の免許を取得します。ただし選修に関わらず、多くの学生が両免許を取得しています。また、多くの学生が高校(家庭)の免許も取得しています。そのほかにも、必要な単位を修得すれば、幼稚園、学芸員や司書教諭等の資格も取得できます。

取得できる 免許

初等教育選修は小学校、中等教育選修は中学校(英語)の免許を取得します。大部分の学生は両免許、さらには、高校(英語)の免許を取得しています。

特別支援教育コース



募集人員 前期11名、後期7名

基礎免許(小学校/中学校)と、特別支援学校の免許状、両方の取得を目指すコースです

子ども一人ひとりの特別な教育的ニーズ(発達の遅れ、他者とのかかわりの苦手さ、学習のつまずき、身体の動きの制約、疾患による制約や後遺症の影響など)に目を向け、適切な支援ができる教員等を育成するコースです。

全ての教育機関(幼稚園、小学校、中学校、高等学校等)において、特別支援教育が行われています。特別支援学校のみならず、地域の学校園にも特別な教育的ニーズを有する子どもが多く在籍しています。現在、ほとんどの学校園には「特別支援教育コーディネーター」という役割の教員がいます。すべての子どもたちの教育を支える上で、特別支援教育は欠かすことのできない基盤であり、そのプロフェッショナルとして現場で活躍できる教員を養成しています。

教員の専門分野について

特別支援教育コースには、5名の教員がいます。教育学担当の教員が2名、医学担当の教員が1名、心理学担当の教員が2名です。免許状に対応する「知的障害」「肢体不自由」「病弱」の分野について学ぶほか、「発達障害」「重度重複障害」「視覚障害」「聴覚障害」などについても学びます。5名の教員で複数の分野をカバーしています。その分、学生と教員が接する機会が多いのが当コースの特徴です。

学生の活動について

特別支援教育コースの学生は、1年次からさまざまなボランティア活動を行っています。大学祭においては、特別支援学校等の児童生徒を招待し、「こどもまつり」(写真参照)を企画しています。学修だけでなく課外活動も充実しているのが本コースの特徴です。



ボランティア活動の様子



こどもまつり(大学祭)



コースの学生写真

教員の声



森 浩平 准教授
もりこうへい
【担当科目】
知的障害教育論、知的障害者の心理・生理・病理、知的障害教育Ⅱ など
【専門分野】
特別支援教育、障害児心理

特別支援教育コースは、子ども一人ひとりの特別な教育的ニーズ(発達の遅れ、他者とのかかわりの苦手さ、学習のつまずき、身体の動きの制約、疾患による制約や後遺症の影響など)に目を向け、適切な教育や支援ができる教員等の育成を行うコースです。特別支援学校のみならず、地域の学校にも特別な教育的ニーズを有する子どもたちが多く在籍しています。幼児児童生徒の心に寄り添い、多様性を尊重した素晴らしい教育や支援の在り方について、講義だけでなく、交流や実践、教員・学生相互の議論等を通して学ぶことができます。

学生の声



大久保 凱人 さん
おおくほ かいと

特別支援教育コースでは、自分の学びたい障害だけでなく、幅広く様々な視点から障害の特性や支援の仕方を学ぶことで、新たな発見や今自分が学びたいことをさらに具体的にできるなど特別支援教育に興味がある人もない人も講義を受けていて楽しいと思えるコースです。また、本コースでは主免許を小学校か中学校を選ぶことができ、副免許は主免許によりますが高校や幼稚園が取ることができ、自分がしたいことを幅広い選択肢の中から考えることができます。他にも、ボランティア活動を多く行っているため話を聞くだけでなく実際に足を運び参加したり、自らボランティアを企画し支援の内容を考えたりなど講義内で学んだことを活かせることができます。このように幅広く様々な視点を学び新たな発見ができるのが本コースの特徴です。

取得できる免許

小学校あるいは中学校の免許を取得します。加えて、特別支援学校の免許の取得が必須ですので、本コースでは、必ず2つの免許(小学校+特別支援学校、中学校+特別支援学校)を取得します。その他、幼稚園や高校の免許の取得も可能です。

幼児教育コース



募集人員 前期10名

環境とかかわり 主体的に遊ぶ子どもを育てるために

子どもを大切に思い、その幸せを願い、そして彼らがたくましく生きるための根っこの力を育てる。幼児教育コースでは、子どもを主体とした保育・幼児教育の専門家を育てます。

この世界は大人にとっては「あたりまえ」のものであふれているかもしれませんが、幼い子どもにとってはそうではありません。子どもは身近な環境にあるモノやコトに興味を示し、驚いたり不思議がったりしながら主体的にかかわり、そして、遊びへとふくらませ、遊びを通して様々なことを学んでいきます。子どものそばにいる保育者が適切なかかわりをすれば、その学びはよりいっそう意味のあるものとなります。

本コースの4年間の学びでは、まず、保育者に必要な幅広い教養と基礎知識を身に付け(1年次)、次に、保育の基礎理論を学び、保育参加を通して保育技能を磨いていきます(2年次)。さらに、理論をふまえた保育実践を自ら展開することを通して専門性を高め(3年次)、最後に、自らの保育実践を持ち寄り、理論と照らし合わせつつ対話を重ねることで専門性を深めます(4年次)。

幼児教育学

自ら育とうとする子どもの遊びを通した育ちや学びを大切に乳幼児期の教育・保育について学びます。子どもを取り巻く環境や保育者の役割について、社会、歴史、文化等、様々な視点から考えます。

幼児心理学

乳幼児期の子どもの心身の発達と発達の視点に基づく保育方法について学びます。子どもの発達プロセスについて知ることは、子どもの本当の思いに気づき、遊びを通して子どもの力を伸ばすことに繋がります。

保育内容研究

乳幼児の発達に基づいた保育内容(人間関係、言葉、表現、健康、環境)と保育計画について学びます。具体的な実践や事例から知識や技能を習得するとともに、保育の指導・援助のあり方について考えを深めます。



附属幼稚園の園庭



幼稚園での初めての实地観察

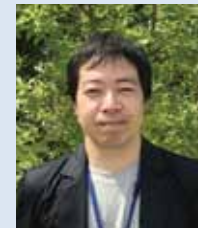


未就園児の会での絵本の読み聞かせの様子



学生たちが制作したペーパーアート

教員の声



富田 昌平 教授
とみた しょうへい
【担当科目】
子ども理解の理論と実践、子どもの理解と援助、子ども家庭支援の心理学 など
【専門分野】
幼児心理学、保育学

幼児教育コースでは、幼児教育学、幼児心理学、保育内容のほか、福祉学、小児保健学・栄養学など、子どもの乳幼児期に関する理論や実践等の学習を通して乳幼児の望ましい成長・発達について体系的に学ぶことを目的としています。入学後、基礎から専門へ、学ぶ主体である学生の学習の興味や関心によってカリキュラムが構成され、4年間で必要とされる幼児教育・保育に関する学習内容を履修できるようになっています。また、附属幼稚園や近隣の幼稚園・保育園等との連携に基づく豊富な体験と学内での理論的・実践的な学びとの往還を通して、高度な専門性を得ることができます。少人数ですが、タテとヨコのつながりを密にしながら、4年間楽しく学びましょう。

学生の声



岡本 美咲 さん
おかもと みさき

幼児教育コースでは、乳幼児の成長や発達など幼児教育・保育の基本的なことを学ぶ授業だけでなく、実際に附属幼稚園や保育所に行き、子ども達と触れ合える機会が多くあります。そのおかげで授業を受けて学んだことを実際に実践してみたり、様々なことを経験できたりして保育についての経験や考えを深めていくことができます。また、10人程の少人数のコースであるからこそ同じ目標をもったみんなと協力して行う活動が多くあり、互いに切磋琢磨しながら成長することができます。私たちの学年は11人いて、みんなでご飯を食べに行ったり、長期休みにはみんなで遠出をしたりするくらい仲が良く、三重大学の幼児教育コースに来てよかったと思います。他学年とも交流をする機会がたくさんあり、幼教全体温かい雰囲気です。ぜひ皆さんも幼児教育コースと一緒に楽しく保育について学びましょう!

取得できる免許

幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得します。必要な単位を修得すれば、小学校教諭一種免許状も取得できます。

学校教育教員養成課程

学校教育コース

教育学専攻



募集人員 推薦3名、前期7名

学校での問題を教育学を通して解決できる人を育てます

学校教育現場の多側面で活躍できる能力を育成する総合的なカリキュラムがあります。教育学の豊富な知見を学ぶ授業とともに、それらを現場で生かすための実践的な科目が準備されています。

教育学専攻は、教科内容ではなく教科を越えた「教えること」に関わる内容を中心に学びます。そのために、教育学のスタッフが、教科の学習指導の根本となるような事柄（教育の哲学、教育方法など）や、いじめ・不登校・学級崩壊など学校の諸問題、そしてより大きな教育システム（教育制度、諸外国の教育など）に関わる事柄など、教育に関わる幅広い理解ができるカリキュラムを用意しています。

本専攻は、小学校一種免許の取得が卒業要件となっており、必要な単位を取得すれば、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校の一・二種免許の取得が可能です（中学・高校の免許については教科によって取得できない場合もあります）。他に、学校図書館司書教諭や学芸員の資格の取得も可能です。

教育学専攻には、以下のような特色ある授業科目があります。

教育の哲学

学校教育で扱われている諸テーマについて、それらがなぜ教育上価値あるものとされるのかについて考えます。例えば、経験によっては獲得されえない知が教育において有する意味について探求します。

子どもの生活と教育

子どもたちが自分たちの生活における様々な問題を発見し、その解決に向けた取り組みを続け、その過程で学び合っていくような教育の意義と可能性を追求します。

学校教育実地研究

学校教育に関係する様々な活動に関わることを通して、現場で生かせる力を育てます。

教育学研究演習

自身の関心に即して研究テーマを設定し、それぞれのテーマをもったメンバーとの活発な議論を重ねながら、探究を進めていきます。



入門セミナーの授業風景



研究演習の授業風景



学校教育実地研究



教育学研究演習

教員の声



大日方 真史 教授
おひなた まさし
【担当科目】
子どもの生活と教育、
学級の子どもの学、
教育実践研究法 など
【専門分野】
教育方法学・生活指導論

教育学専攻は、小学校免許を必須としていますが、多くの学生は、幼稚園や特別支援、また中学校の免許も取得します。学生の気質（かたぎ）としては、子どもが好きで、子どもの発達や内面に関心のある人が多いです。カリキュラムとしては、理論と実践の融合を目指し、哲学や理念を持って、専門的な共同体をつくりながら教育実践をデザインできる教師（カリキュラムや授業づくり、そして生活指導の力を持つ）を育てます。また実際に学校現場に足を運んで活動する実地研究科目を早期（1年生）から設定し、教育の現代的諸問題に対する課題解決能力を育てています。

学生の声



三輪 二千華 さん
みわにしか

学校教育コース教育学専攻は、何かの教科に特化するのとは異なり、いじめ・不登校など学校の諸問題、そして教育哲学や教育方法学など様々な学問分野から教育そのものについて学ぶことができる専攻です。具体的な授業として、様々な先生から多様な教育テーマについて学ぶ「学校教育最先端セミナー」（1年次受講）があります。また、1年生のうちから地域の学校での学習支援活動に参加する機会もあります。2年生以降にも教育を幅広く学べる授業や実践の場が用意されています。このように、自分の興味を深めて学びながら、早くから沢山の実践活動ができることが教育学専攻の特徴です。これらのカリキュラムを通じて、教育に関する課題について幅広い視点で考える力を獲得し、教育現場における実践に役立つ力へと繋げて成長していくことができます。

取得できる免許

小学校の免許を取得します。この他、必要な単位を修得すれば、中学校（希望する教科）や特別支援学校の免許を取得することも可能です。

学校教育教員養成課程

学校教育コース

教育心理学専攻



募集人員 推薦3名、前期7名

学校での子どもの問題を心理学的側面から支援できる人を育てます

学校教育のなかで、心理学は古くから学習・発達・対人関係・こころの問題などに関する数多くの知見を提供しています。教育心理学専攻では、心理学の方法論を学び、専門的知識を持つ教師として、学校現場で活躍できる人材の育成を目指します。

教育心理学専攻は、心理学の基本的な内容を中心に学びます。

学校教員として必要な心理学の素養を身につけてもらうため、教授法や学習心理学の分野、発達や認知心理学の分野、社会心理学やコミュニケーションの分野、発達臨床や心理的援助の分野を学んでいきます。また、大学での学習にとどまらず、県内の小学校などでの教育実践の機会も積極的にとりいれています。

本専攻は、小学校一種免許の取得が卒業要件となっており、必要な単位を取得すれば、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校の一・二種免許の取得が可能です（中学・高校の免許については教科によって取得できない場合もあります）。他に、学校図書館司書教諭や学芸員の資格の取得も可能です。

教育心理学専攻には、以下のような特色ある授業科目があります。

発達臨床

子どもの事例をとりあげながら、心理面や認知面に配慮した具体的な援助方法について学んでいきます。

心理データ解析

心理学の研究法として、質問紙調査法の実施方法とデータの統計的分析手法を学びます。

行動科学基礎実験法

心理学における実験法、観察法および心理測定法の基本を学びます。授業はグループ形式で進められます。

学校教育実地研究

学校教育に関係する様々な活動に関わることを通して、現場で生かせる力を育てます。



研究法の授業での授業風景



学校教育実地研究



行動科学基礎実験法



研究室の様子

教員の声



南 学 教授
みなみ まさひろ
【担当科目】
発達心理学、認知発達心理学、
行動科学基礎実験法、
思考の教育 など
【専門分野】
発達心理学、教育心理学

学校教育コースでは、各科目の学習を行う他コースと比べ、学校教育そのものへの深い学びを得ることができます。過去と未来をつなぐ教育において、現代の課題を検討し、改善を模索することは非常に重要です。そこで教育心理学専攻では、心理学を基礎発展まで幅広く学び、専門的な観点から学校教育を見つめ直すことができます。心理学を学習する中で、子どもの様子を観察・考察する力や、学校集団における知見が得られるのも特徴です。また、同学校教育コース教育学専攻の学生とも共に学ぶ機会が多く、学生同士の関わりも密にあります。お互いに刺激し合い、より広い視野を身につけることができます。実地研究などの実践的な活動が多いことも、このコースの特徴です。

学生の声



笠井 優 さん
かさい ゆう

学校教育コースでは、各科目の学習を行う他コースと比べ、学校教育そのものへの深い学びを得ることができます。過去と未来をつなぐ教育において、現代の課題を検討し、改善を模索することは非常に重要です。そこで教育心理学専攻では、心理学を基礎発展まで幅広く学び、専門的な観点から学校教育を見つめ直すことができます。心理学を学習する中で、子どもの様子を観察・考察する力や、学校集団における知見が得られるのも特徴です。また、同学校教育コース教育学専攻の学生とも共に学ぶ機会が多く、学生同士の関わりも密にあります。お互いに刺激し合い、より広い視野を身につけることができます。実地研究などの実践的な活動が多いことも、このコースの特徴です。

取得できる免許

小学校の免許を取得します。この他、必要な単位を修得すれば、中学校（希望する教科）や特別支援学校の免許を取得することも可能です。

附属教職支援センター

教員を目指す学生の学びをサポートします

附属教職支援センターは、英語で Center for Future Teachers and School Support と表記します。

「Future Teachers 未来の教員」とは、教育学部で学びたい皆さんです。

将来、幼・小・中・高・特支学校等で教員になりたい夢をサポートします。

● **教員養成支援部門** 学校現場経験者を中心とする専任スタッフが、教員採用試験合格まで手厚くサポートします。

● **学校連携支援部門** 本学近隣の学校園等と連携し、実践的に学びを深めていけるようサポートします。

● **研修開発支援部門** 「教育の情報化」等の現職教員研修や、教師教育に関する調査・研究等をサポートします。

● **総合支援室** 教育実践力の育成を目的とする科目の履修や、活動カルテの企画・管理を通して学修をサポートします。

2つの完全サポート

「完全サポート①」のような職業意識を高めるための教育的支援や就職に役立つような学修に対して、**約9割**の学生が「満足」と回答しており、この割合は年々向上しています。

「完全サポート②」では、集団討論練習や模擬授業練習等の教員採用試験セミナーを**年間170回以上**実施し、延べ約3,800人の学生が参加しています。この活動に7回以上参加した学生の**約9割**が教員採用試験に**合格**しています。

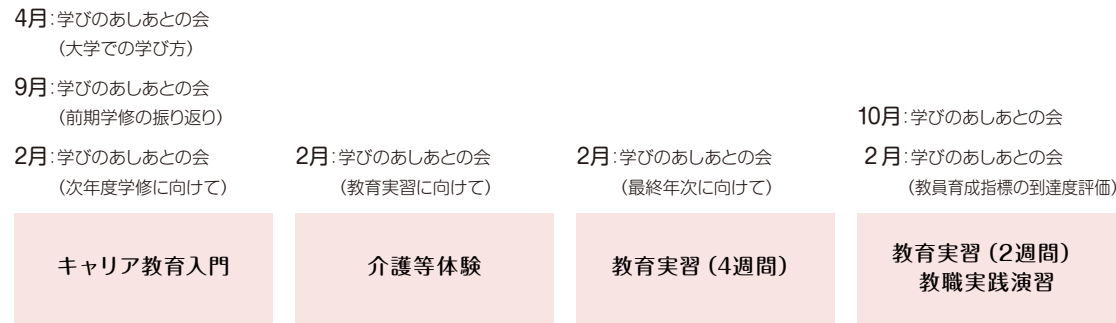
完全サポート

①

教員としての
力量形成のための学修を
完全サポート

*
教育実践力を育成する
カリキュラムと
キャリアシステムを完備
*

* 三重大学キャリア支援システムの「振り返り記録」に半期ごとの学修の振り返りを入力し、4年間の学びの軌跡を可視化していきます。



1年次 2年次 3年次 4年次

完全サポート

②

教員を目指す学生の
就職を
完全サポート

*
校長・教育行政経験者等による
指導体制を完備
*

教育アシスタント・教育ボランティア

- 大学近隣の幼稚園、小・中学校における活動
- 三重県内の学校現場等における活動
- 附属学校園 (幼稚園、小・中学校、特別支援学校) における活動



教員採用試験セミナー

- 自治体別教員採用試験説明会
- 模擬授業練習
- 新入生オリエンテーション
- 場面指導練習
- 個人面接練習
- 全国模試
- 集団面接練習
- 幼稚園・保育園面接実技対策
- 論文・論述対策指導
- 小学校実技対策
- 小学校英語リスニング対策
- 集団討論練習

入試情報

令和6年度入学状況

(単位:人)

課程	学校教育教員養成課程																								
	国語教育				社会科教育				数学教育				理科教育				音楽教育								
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育						
日程	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	南部	全域	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期
募集人数	※	※	11	3	7	2	※	※	8	2	5	2	※	※	11	10	※	※	10	9	※	※	4	3	3
志願者数	0	1	46	37	22	18	0	1	19	36	39	34	0	1	20	44	0	3	18	28	0	2	7	11	4
受験者数	0	1	45	12	21	8	0	1	18	13	38	14	0	1	20	40	0	3	16	27	0	2	7	2	3
合格者数	0	1	10	3	7	2	0	1	8	2	5	3	0	0	11	10	0	2	9	9	0	1	4	2	3
入学者数	0	1	10	3	7	2	0	1	7	2	4	3	0	0	11	10	0	2	9	8	0	1	4	2	3

課程	学校教育教員養成課程																									
	美術教育				保健体育				技術・ものづくり教育				家政教育				英語教育									
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育							
日程	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	推Ⅰ	前期	推Ⅱ	南部	全域	前期	後期	南部	全域	前期	後期
募集人数	※	※	6	3	※	※	6	3	5	3	※	※	5	1	4	3	※	※	5	5	※	※	6	7		
志願者数	0	0	16	5	0	1	23	40	14	29	0	0	20	0	10	3	0	0	12	18	0	1	9	19		
受験者数	0	0	14	5	0	1	23	25	12	12	0	0	20	0	10	3	0	0	10	16	0	1	9	19		
合格者数	0	0	7	3	0	0	7	3	5	3	0	0	6	0	6	2	0	0	6	5	0	0	6	7		
入学者数	0	0	7	3	0	0	7	3	5	2	0	0	6	0	6	2	0	0	6	5	0	0	6	7		

課程	学校教育教員養成課程																教育学部合計						
	特別支援教育				幼児教育				学校教育 (教育学専攻)				学校教育 (教育心理学専攻)										
	—		—		—		—		—		—		—										
日程	全域	前期	後期	全域	前期	推Ⅰ	南部	全域	前期	推Ⅱ	南部	全域	前期	推薦	南部	全域	前期	推薦	南部	全域	前期	後期	合計
募集人数	※	11	7	※	10	3	※	※	7	3	※	※	7	10	※	※	165	25	200				
志願者数	4	21	61	1	34	8	0	0	31	11	0	1	21	22	0	16	500	266	804				
受験者数	4	19	16	1	32	8	0	0	30	11	0	1	21	22	0	16	475	102	615				
合格者数	1	11	7	1	10	3	0	0	8	3	0	0	8	8	0	7	171	25	211				
入学者数	1	11	7	1	10	3	0	0	8	3	0	0	7	8	0	7	167	24	206				

注1) 各コースの志願者数、受験者数は第1志望の集計です。合格者数は正規合格者、入学者数は正規入学者。

注2) 「推Ⅰ」は推薦Ⅰ、「推Ⅱ」は推薦Ⅱ、「南部」は地域推薦 (三重県南部地域)、「全域」は地域推薦 (三重県全域) の募集であることを示します。

令和7年度入学定員

(単位:人)

課程	学校教育教員養成課程																								
	国語教育				社会科教育				数学教育				理科教育				音楽教育								
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育						
日程	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期				
募集人数	※	※	11	3	7	2	※	※	8	2	5	2	※	※	11	10	※	※	10	9	※	※	4	3	3

課程	学校教育教員養成課程																									
	美術教育				保健体育				技術・ものづくり教育				家政教育				英語教育									
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育							
日程	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	推Ⅰ	前期	推Ⅱ	南部	全域	前期	後期	南部	全域	前期	後期
募集人数	※	※	6	3	※	※	6	3	5	3	※	※	5	1	4	3	※	※	5	5	※	※	6	7		

課程	学校教育教員養成課程																教育学部合計						
	特別支援教育				幼児教育				学校教育 (教育学専攻)				学校教育 (教育心理学専攻)										
	—		—		—		—		—		—		—										
日程	全域	前期	後期	全域	前期	推薦	南部	全域	前期	推薦	南部	全域	前期	推薦	南部	全域	前期	推薦	南部	全域	前期	後期	合計
募集人数	※	11	7	※	10	3	※	※	7	3	※	※	7	10	※	※	165	25	200				

注1) 募集人数については変更する場合があります。前期・後期の日程で、初等・中等の選修があるコースにおいては、初等及び中等の併願ができます。

注2) 「推Ⅰ」は推薦Ⅰ、「推Ⅱ」は推薦Ⅱの募集であることを示します。

注3) 「南部」の※は地域推薦 (三重県南部地域) で募集があることを示します。なお、地域推薦 (三重県南部地域) の合格者は各コース1名以内、合計5名以内とします。また、合格者があった場合は前期日程の定員を充当します。

注4) 「全域」の※は地域推薦 (三重県全域) で募集があることを示します。なお、地域推薦 (三重県全域) の合格者は、前期日程初等教育選修の募集定員 (選修の別がないコースは前期日程の募集定員) が5名以下のコースは1名以内、6名以上の場合は2名以内) とします。また、合格者があった場合は前期日程の定員を充当します。

進路状況

(2024年度現在)

進学

大学院で学ぶ

三重大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻(教職大学院)は、「学校経営力開発コース」と「教育実践力開発コース」から構成されています。さらに、学校経営力開発コースには「経営力開発分野」と「学習開発分野」が、教育実践力開発コースには「教科教育高度化分野」と「特別支援教育分野」が設置されています。

大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

目的

本教職大学院(三重大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻)は、三重県における喫緊の教育課題に取り組むため、学校を変える推進者としてのスクールリーダーとなる現職教員、将来的に地域教育を支えるミドルリーダーとなる資質・力量のある新人教員を養成することを目的としています。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

学級・学校経営、学習指導方法の開発・改善、生徒指導・教育相談、教育課程、教師教育等における様々な今日的課題の解決、または教科の専門性や特別支援教育、幼児教育の知識・技能の習得による実践的授業力の向上のため、確かな指導理論の構築を目指し、より高度な実践力と応用力を身につけたい人。

現職教員

学校現場での経験に基づき、教職大学院での明確な研修テーマや課題を持ち、それらを協働で解決し、学校や地域において指導的役割(スクールリーダー)を目指す教員。

学部新卒者等

学校現場での実習や現職教員学生との協働により、教職に関する実践的な専門性や高度な実践力を身につけたい人。

- 特に、次の3点を入学者に求めています。

- 【探究】学校・地域の教育課題をより広い視野で探究できる人
- 【協働】より柔軟な発想で協働的に学び続けることができる人
- 【創造】地域の教育の未来を創造することに強い思いを有している人
- 【入学者選抜方法】
本教職大学院の求める入学者を適正に受け入れるために、小論文および口述試験による選抜を実施します。詳しくは、三重大学教育学部・教育学研究科のホームページや募集要項をご確認ください。

学位と取得免許

本教職大学院を修了すると教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員免許法に定める所定の単位数を取得すれば取得単位に応じた専修免許状の取得資格が得られます。ただし取得には対応する一種免許状をすでに有している必要があります。

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

- 児童・生徒の実態や教育諸問題の理解に必要な専門的知識を修得している。
- 専攻するコース・分野に関する教育課題について理論的・実践的な研究能力を身につけている。
- 異文化・多世代の人と協働することや、省察的実践の意義を理解することができる。
- 自律性をもった高度専門職業人として、継続的に理論的・実践的研究に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

本教職大学院は、教育に関する高度専門職業人を育成することを目的とし、以下の3つの授業科目群を配置し、理論と実践の往還を重視したカリキュラムを策定する。

- 共通科目群
- 選択科目群
- 中核(コア)科目群

教職実践高度化専攻(教職大学院)

大学院の構成

教職実践高度化専攻(教職大学院)は、「学校経営力開発コース」と「教育実践力開発コース」の2コースから構成されています。

●学校経営力開発コース

経営力開発分野(現職教員対象)

地域の教育改革を主導するスクールリーダーを育成します。

学習開発分野(学部新卒者等対象)

多様で複雑な教育課題に対応できる人材を育成します。

●教育実践力開発コース

教科教育高度化分野(現職教員・学部新卒者等対象)

高度な教材開発力と授業力を持つ人材を育成します。

特別支援教育分野(現職教員・学部新卒者等対象)

特別支援教育に関する高度な専門性を持つ人材を育成します。

VOICE 修了生の声

- ① 在籍区分および校種等 ② 教職大学院での学びを振り返って



阪本 明士
(学校経営力開発コース 経営力開発分野修了)

- ① 現職教員学生として在籍/高等学校教諭
- ② この2年間の大きな財産は、学びを通して得た「人との出会い」でした。先生方、同期生の仲間、研究を通じて知り合った方々などから多くの刺激と気づき、勇気をいただきました。本来、学びは厳しいものでなければならぬと考えています。しかし、一人ではなかなかできないものです。背中を支え、時には押ししてくれた方々に感謝いたします。次は自分が子どもたちを支えなければいけないと思っています。



鈴木 理奈
(学校経営力開発コース 学習開発分野修了)

- ① 学部新卒学生として在籍/2023年度より中学校教諭
- ② 私は「科学的に探究する力と態度を確実に育成する授業」について学びたいと考え進学しました。教職大学院で理論的な知識と学校現場での実践を融合させながら学ぶことにより、自身の「教育観」を様々な角度から見つめ直すことができました。この経験を積み重ねることにより、教師として教壇に立つ自信を持つことができました。ここで学んだことを活かして、これから現場での実践に励んでいきます。



若林 徳亮
(教育実践力開発コース 教科教育高度化分野修了)

- ① 現職教員学生として在籍/小学校教諭
- ② 2年間は、正解のない問いを考える時間でした。ただ一つの正解を探すのではなく、仲間とともに一つの実践や一つの出来事に向き合うこと、その中で自分の枠を更新していくこと。実践のおもしろさと教育の奥深さを頭と心と身体で体験できました。同期の皆でそのような時間を過ごすことができたことが大きな財産です。これから大学院生でなくなっても続けていくことを課題としたいです。



森井 集也
(教育実践力開発コース 特別支援教育分野修了)

- ① 学部新卒学生として在籍/2023年度より特別支援学校教諭
- ② 教職大学院での2年を経て、より明るく、自然に子どもたちと関わるようになったと感じます。明るく、という点では子どもたちと日々関わりを重ねられたことが理由だと考えます。実習や、ボランティア等で現場に行く機会が多くあり、有意義な時間を過ごせました。また自然に、という点では子どもの反応が理論に則って整理できる場面が増えたことが理由だと考えます。来年度以降も、実践に関わりながら理論を学び続けていきます。

就職

優れた就職実績

近年、全国的に教員採用数が増えてきています。講師への需要も高く、卒業生も教育の現場での就職が可能で、教員免許が必修の学校教育教員養成課程の学生はほとんどが教員となっています。教員以外では公務員や一般企業への内定が決まり、教育学部全体で見るとほぼ全学生が就職しています。

教育学部全体の就職率

就職希望者に対する就職内定率

98.3%

公立小・中学校合格率

採用試験受験者に対する合格率

71.2%

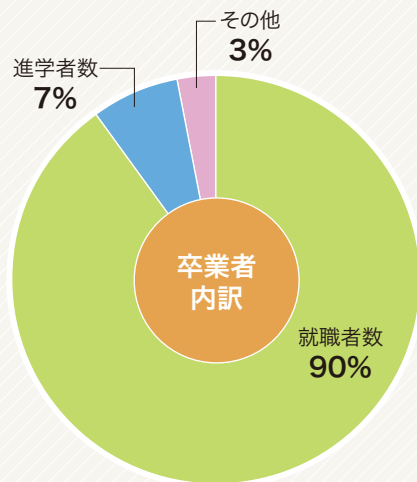
三重県小・中学校合格率

三重県の採用試験受験者に対する合格率

70.0%

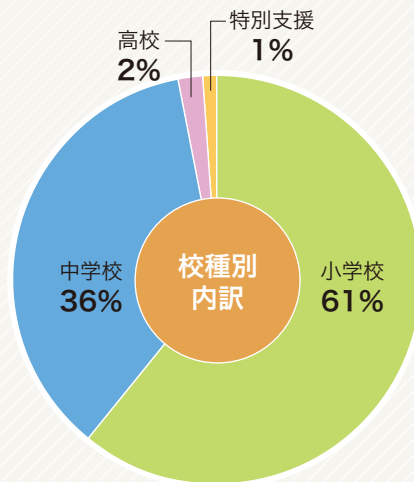
さらに…公立高校2名・特別支援学校1名が合格

令和4年度卒業者の就職状況



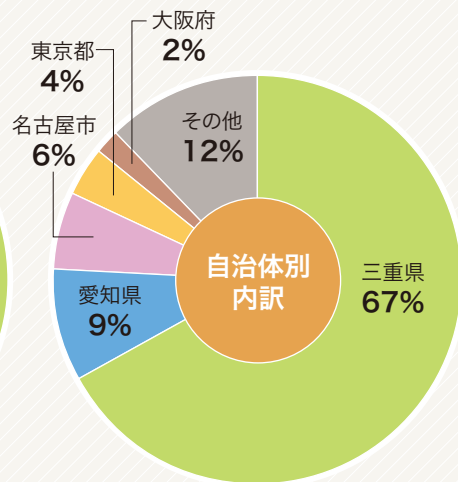
● 就職者数 175人
● 進学者数 13人
● その他 6人

合格者の校種別内訳



● 小学校 52人 ● 特別支援 1人
● 中学校 30人
● 高校 2人

小・中・高・特別支援合格者の自治体内訳



● 三重県 57人 ● 東京都 3人
● 愛知県 8人 ● 大阪府 2人
● 名古屋市 5人 ● その他 10人

「三重大学概要2023」より 令和4年度就職状況

三重大学教育学部教職支援室より 令和5年度採用試験合格状況

Q&A

教育学部の入試に関しては以下のページもご覧ください。

<https://www.edu.mie-u.ac.jp/exam/fc/index.html>

受験について

Q 出願時に、コース間での併願はできますか？

A 基本的にはできません。しかし、コースによっては、条件があったり受験科目が違ったりすることもあります。できないところもあるため、募集要項をよく読んで、出願してください。

Q 三重大学教育学部について知ることができるものは、学部案内のほかに何がありますか？

A 主に2つあります。1つ目は、直接話を聞いたり、見学ができれば、8月に行われる教育学部のオープンキャンパスです。全体で教育学部についての話を聞いた後、各コースに分かれて説明や模擬授業が行われるため、それぞれのコースについても詳しく知ることができます。2つ目は三重大学や教育学部のホームページです。入試情報ははじめ、教員紹介や附属学校園について紹介されています。コースによっては、独自にホームページを立ち上げているところもあるので、検索してみてください。さらに、大学祭などの行事に参加した時には、学生や先生方に気軽に声をかけてみるのも一つです。

学生生活について

Q 他コースの人との交流や教員との関係はどうですか？

A 教育学部では、グループで協力する授業や教育実習もあり、自分のコースを超えて様々な人との交流があり、とても仲良くなれます。また、教員に対する学生数も少ないので教員との関係もふかく、より専門的な指導や相談などをすることができます。

就職について

Q 教員採用試験対策はありますか？

A あります。本学部には校長経験者からなる教職支援センター・教員養成支援部門があり、教員採用試験対策セミナーとして、面接練習（個人、集団）や小学校実技練習、教職教養・小学校専門DVD講座、学内模試等を行っております。

詳しくは → <https://www.edu.mie-u.ac.jp/education/teaching-pr/index.html> をご覧ください。



教育について

Q 子どもとどのように接する機会がありますか？

A 1年生から卒業に至るまで、実践的な授業を受講したりボランティア活動に参加したりすることなどによって、教育実習以外にも子どもたちと接する機会がたくさんあります。

Q 教育学部で留学することはできますか？

A もちろんです！教育学部が主催している海外教育研修のほか、協定を結んでいる学部間・大学間の交換留学があります。また、生協では留学プランを多数扱っています。留学は費用もかかりますし、期間についても1ヶ月程度の短期留学から半年・1年にわたる長期留学まで様々あるので、単位取得との兼ね合いを考えながら計画を立てることをお勧めします。

Q 小学校の免許を取りたい場合、学校教育コースに入らないといけないですか？

A 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・ものづくり、家政、英語の各コースに初等教育選修がありますので、こちらを選んでも小学校の免許が取れます。深く学びたい教科があるならこちらを選んでいいと思います。（この方が、その教科の中学校免許も取りやすくなります）。また、教科の初等教育選修では、専門的なことも学べますので、「絵の上手な先生」「算数の得意な先生」など、「何かに自信を持っている先生」になれるかもしれません。もしくは「学校での子供の心理的なこと」を学びたいなら学校教育コース（教育学専攻、教育心理学専攻）を選ぶといいと思います。こちらを選ぶと「学校現場の問題を、教育学を通して解決できる先生」「子どもの問題を、心理学的側面から支援できる先生」などになれるのではないのでしょうか。
※上記以外のコースでも、副免許として小学校の免許を取ることが可能です。

Q 中等教育選修を目指していますが初等教育選修に入学しても中学校教員の免許が取得できますか？

A 初等教育選修で合格された場合でも、中学校教員免許の取得は本人の努力によって可能です。入学された大多数の学生は、自分の所属するコースで小学校・中学校・さらには高校などの複数校種の免許を取得して卒業します。

Q 高校の教員免許を取得するにはどうしたらよいですか？

A 本学では中等教育選修で学修されると、卒業と同時に中学校免許が取得できるようにカリキュラムが組まれています。高校教員の免許は、同じ教科であれば中学校教員免許に必要な単位に、さらに8単位を加えれば取得が可能です。卒業に必ずしも必要ではない単位取得については、開講時間により計画通りに時間割が組めない可能性もあり、その点は工夫と努力が必要になります。なお、初等教育選修に入学された場合でも、必要な授業数はさらに増えますが上述のような工夫と努力次第で取得は可能となります。

コース別の進路状況

過去3年間

※各コースの専門性等に基づき、本表の表記や内訳は厳密に統一されてはおりません。

コース	年度(卒業生)	内 訳
国語教育コース	令和5年度	教諭15名(小学校9名、中学校6名)、講師1名(中学校1名)、大学院進学1名
	令和4年度	教諭15名(小学校11名、中学校4名)、大学院進学2名
	令和3年度	教諭6名(小学校5名、中学校1名)、講師3名(小学校2名、中学校1名)、大学院進学2名、その他1名
社会科教育コース	令和5年度	教諭7名(小学校5名、中学校2名)、講師2名(小学校1名、中学校1名)
	令和4年度	教諭5名(小学校5名)、講師5名(小学校4名、中学校1名)、在外日本人学校1名、大学院進学4名
	令和3年度	教諭9名(小学校6名、中学校3名)、講師2名(小学校1名、中学校1名)
数学教育コース	令和5年度	教諭2名(小学校1名、中学校1名)、講師3名(小学校1名、中学校1名、高校1名)、私立中高一貫校1名、大学院進学5名
	令和4年度	教諭10名(小学校4名、中学校6名)、講師4名(小学校1名、中学校2名、私立中高一貫校1名)、大学院進学1名
	令和3年度	教諭10名(小学校4名、中学校5名、高校1名)、講師2名(高校2名)、大学院進学5名
理科教育コース	令和5年度	教諭8名(小学校4名、中学校3名、高校1名)、講師1名(小学校1名)
	令和4年度	教諭12名(小学校5名、中学校6名、高校1名)、講師1名(小学校1名)、私立中等教育学校1名、非常勤講師1名(中学校1名)
	令和3年度	教諭6名(小学校4名、中学校2名)、講師4名(小学校2名、中学校2名)、非常勤講師1名(中学校1名)、私立学校3名
音楽教育コース	令和5年度	教諭2名(小学校1名、中学校1名)、講師1名(中学校)
	令和4年度	教諭4名(小学校4名)、講師1名(中学校1名)、大学院進学1名
	令和3年度	教諭3名(小学校1名、中学校2名)、講師3名(小学校1名、中学校1名、高校1名)
美術教育コース	令和5年度	教諭3名(小学校1名、中学校2名)、講師2名(中学校)
	令和4年度	教諭4名(小学校1名、中学校2名、高校1名)、講師2名(中学校1名、特別支援学校1名)
	令和3年度	教諭2名(小学校2名)、講師1名(特別支援学校1名)
保健体育コース	令和5年度	教諭7名(小学校6名、中学校1名)、講師4名(小学校4名)、大学院進学1名
	令和4年度	教諭4名(小学校3名、高校1名)、講師2名(小学校2名)、大学院進学1名
	令和3年度	教諭7名(小学校7名)、講師3名(小学校2名、高校1名)

学校教育教員養成課程

コース	年度(卒業生)	内 訳
技術・ものづくり教育コース	令和5年度	教諭4名(小学校1名、中学校2名)、講師1名(中学校1名)
	令和4年度	教諭4名(小学校2名、中学校1名、特別支援学校1名)、講師1名(中学校1名)
	令和3年度	教諭6名(小学校4名、中学校2名)、専門学校進学1名
家政教育コース	令和5年度	教諭6名(小学校2名、中学校4名)
	令和4年度	教諭8名(小学校4名、中学校3名、高校1名)
	令和3年度	教諭5名(小学校3名、中学校1名、高校1名)、大学院進学1名
英語教育コース	令和5年度	教諭7名(小学校3名、中学校3名、高校1名)、講師1名(高校1名)、私立中高一貫校1名、大学院進学1名
	令和4年度	教諭6名(小学校2名、中学校3名、高校1名)、講師1名(中学校1名)
	令和3年度	教諭7名(小学校4名、中学校3名)
特別支援教育コース	令和5年度	教諭7名(小学校5名、中学校1名、特別支援学校1名)、講師3名(小学校3名)
	令和4年度	教諭7名(小学校5名、中学校1名、特別支援学校1名)、講師1名(小学校1名)、私立中学校教員1名、
	令和3年度	教諭7名(小学校5名、特別支援学校2名)、講師5名(小学校1名、特別支援学校3名、幼稚園1名)、大学院進学1名
幼児教育コース	令和5年度	幼稚園教諭・保育士7名、小学校教諭2名
	令和4年度	幼稚園教諭・保育士7名、児童指導員1名
	令和3年度	幼稚園教諭・保育士7名
学校教育コース 教育学専攻	令和5年度	教諭5名(小学校5名)、講師1名(小学校1名)
	令和4年度	教諭2名(小学校2名)、講師1名(小学校1名)、幼稚園教諭1名、保育士1名
	令和3年度	教諭5名(小学校5名)
学校教育コース 教育心理学専攻	令和5年度	教諭6名(公立小学校5名、私立小学校1名)、講師2名(小学校1名、高等学校1名)
	令和4年度	教諭5名(小学校5名)
	令和3年度	教諭2名(小学校2名)

学校教育教員養成課程



市川 健人 さん

国語教育コース 2019年卒業

鈴鹿市立
創徳中学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 中学生の頃から「中学校の国語の先生になりたい」と思っていたからです。小学校高学年の時の授業がきっかけで国語が好きになりました。また、幼い頃から先生との出会いに恵まれ、中学生の時に「こんな先生になりたい」と思う先生に出会いました。これらのことから中学校の国語の先生を志すようになりました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 3年次、4年次の教育実習です。初めて「先生」として子どもと接し、自分の未熟さを痛感したと同時に、「先生になりたい」という気持ちが一層強くなりました。教育実習の際に毎日書いた日誌は実習の時の気持ちを忘れないようにするために家のすぐ目につく場所に置いてあります。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 教育実習はもちろんのこと、1年次から実際の授業を参観するなど、4年間を通して実践的な学びができたことと、ご専門の先生方のもと、同期や先輩方、後輩の皆さんと国語科について様々な面から専門的なことを学べたこと、この二つが大きいと思っています。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 「今」というのは「過去」の積み重ねです。そして、「今」を積み重ねた結果が「未来」です。「未来の自分」を一番助けられるのは「今の自分」だと思います。未来の可能性を広げるのも狭めるのも自分次第です。ぜひ可能性を広げられるように頑張ってください。



重本 健司 さん

社会科教育コース 2018年卒業

名古屋市立
小碓小学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 高校在学時、進路を選択するときに最も見つけた職業として教員になることを志し、三重大の教育学部に進学することを決めました。進路を決めた際、一番強く興味をもっていた社会科をさらに学びたいと思い、社会科教育コースを志望しました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. ゼミの読書会です。各章ごとに1人ずつレジュメを作成し、発表することを通して、読み深める活動を行っていました。これは思考力を問われるもので、高校までの学習ではまったく経験しておらず、始めは惨憺たるものでした。何時間も延長や遅退にやり直しなどは日常茶飯事で非常に苦しいものですが、上手く発表できたときの達成感はいままでの苦しさを忘れるほどでした。ここで得た思考力は現在の自分の核になっています。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 小・中学校の教育実習で得た学びが学校現場では大いに役立っています。教材研究の方法や授業の展開の仕方は、やはり座学だけでは実感として自分の身に定着しづらいので、実際に現場で働ける教育実習は現在の自分につながる貴重な体験でした。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 大学受験は人生における大きな選択になるかと思いますが、それで全てが決まるわけではありません。大学受験はゴールではなく目的のための過程です。自分は最初から強い希望があったわけではないですが、学び続けたことで新しい発見がありました。学び続けることを意識して頑張ってください。



松本 理沙 さん

数学教育コース 2021年卒業

津市立
西が丘小学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 私は、子どもの頃から小学校が大好きで、子どもたちと関わる仕事かしたいと思っていました。高校生の時に、三重大の教育学部に行って小学校の先生になりたいと思い、様々な教科の専門のコースがあることを知りました。そこで、高校の時に一番好きで面白く思っていた教科が数学だったので、何か専門を極めるのなら、大学の4年間に数学をたくさん勉強して、算数に強みを持った小学校の先生になりたいと考えました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 3年生の9月に行かせていただいた、大好きな母校での1ヶ月の教育実習です。大学生生活の中で一番濃く、かけがえのない時間でした。私は、子どもたちに何かを教えるだけでなく、真っ直ぐな子どもたちから、人として大切なことや素直な気持ちなど、たくさん教わりました。自分自身も共に成長していけること、毎日に数えきれないぐらいの驚きや感動が詰まっていることを知りました。そこからは本気で教員採用試験の勉強をし、辛い時も同じコースの仲間がいたから乗り越えることができました。今でもずっと、心強い仲間です。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 算数について特に研究し、どのように伝えたら子どもたちに分かりやすいか考えてきたので、実際に授業をしたり、分からない子に教えたりするときに役立っています。また、大学では何よりも子どもの立場に立って考えることの大切さを学んだので、子どもたちの話をうなずきながら真剣に聞いたり、悩み事を共有して一緒に考えたり、一緒に遊んだり、常に子どもの立場に立って考えるように意識し続けています。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 私は高校生のとき、将来やりたいことを決めるのにはまだ早いと思っていました。でも、自分と向き合って本当に好きなことを考え、明確な進路を選びました。今思えば、この道を選んでいて本当に良かったと思います。夢があるから、大学の4年間の学びが全て楽しく真剣に取り組むことができました。その先に必要な専門知識を学ぶことができました。あとで先生になりたいと思っても、違う進路を選んでいたらなれなかったかもしれません。また、ここで出会った仲間や先生が大好きで、大人になってもいつでも三重大が自分の心の居場所だと思って、心強く頑張れます。ぜひ、自分の一番好きなことを夢にして頑張ってください。



岡崎 こころ さん

理科教育コース 2015年卒業
大学院(理数・生活専修) 2017年修了

ハンブルグ日本人学校 勤務
(亀山市立中部中学校所属)

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 中学生の時は、理科が好きでしたが、高校生の時に、分からないところが多すぎて苦手になりました。しかし、苦手なまま逃げ出さなかったことと、中学生の時に楽しかった気持ちが忘れられなかったのも、もう一度しっかり理科を学びなおして理科教育コースを選びました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 大学2年生の時に興味をもった、アリの研究を続けたことです。アリの生態について知ることはもちろん、新型アリ飼育容器「不思議の国のアリ巣」を開発して、学会発表やイベントに参加したことが思い出です。また、同期の女子が私を含め8人いたのですが、彼女たちと過ごした日々も大切な思い出です。在学中に、海外の学校現場を見学する機会があり、日本とは異なる教材などにとても刺激を受けたことも貴重な経験で、この経験が今の日本人学校での勤務につながっています。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 理科の知識などはもちろんのこと、実験の手順や方法など、細かい勉強ができたので、指導する側として生徒に伝える技術も向上したと思います。また、学生のときから小中学生を対象としたイベントにも参加したので、様々な角度から理科と関わることで、できることも強みです。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 私は、大学で勉強したことから、苦手なものが職業につながり、興味もなかったことに興味をもつことができました。何が起るかわからないのが人生です。今は夢が見つからなくても、日々の生活できっと何か目標が見つかると思います。日本国内だけでなく、世界に目を向けるきっかけになる研修などもあります。そんな素敵な環境が教育学部にはあります！



保々 武志 さん

音楽教育コース 2011年卒業

三重県立
神戸高等学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 私は中学時代の部活動をきっかけに音楽に没頭する学生時代を過ごしました。その中で音楽の素晴らしさを伝えられる仕事はきっと楽しいはず、そう考えたのが音楽教員を目指すきっかけです。三重大ではピアノ、声楽など音楽教育に必要な幅広い専門技術を学ぶ事ができ、さらに教育関係の知識も得られることが魅力的で志望しました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 音楽科の卒業公演であるフィナルコンサートです。企画・運営・広報など全て学生で分担して行うため、演奏会開催の苦学を学ぶと共に、演奏を通して様々な方への感謝や思いを伝えることができました。四年間過ごした仲間との最後の演奏会、今でもふと思い出す瞬間です。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 高校教育では進路指導の際、様々な教科の知識や教育的観点が必要になる場面が多く、三重大で学んだ教科教育法や一般教養がそういった場面での助けとなっています。特に生徒のカウンセリングや発達心理に関する部分は講義で学んだ知識が現場で非常に役立つことが多いです。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 教員という職業は生徒の成長に携われる喜びややりがいを我々にもたらしてくれます。そして、芸術は人生を豊かにする最高の分野です。芸術の世界で人生を歩みたい高校生の皆さんにとって三重大は素晴らしい学び舎です。いつか共に仲間として現場に立てることを楽しみにしています。



伊藤 由理子 さん

家政教育コース 2020年卒業

桑名市立
光陵中学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 小さいときから人と話すことが大好きで、人と関わる仕事に就きたいと思っていたので教育学部に進みました。家庭科を選んだ理由は、衣食住や消費など生活に直結したことを学ぶことができるので、将来教員にならなかったとしても生活を豊かに送るための勉強になると思ったからです。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 大学2年生の時に三重短期大学と合同で行った地域連携事業です。大町商店街に1日限定カフェを開きました。店内のレイアウトを考えたり、チラシの作成やSNSで情報を拡散したりと、とても貴重な経験になりました。自分たちで考えて何かを成し遂げることの大変さや楽しさを学ぶことができました。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 教育実習や教育ボランティア、附属学校での公開授業など実際の教育現場で経験を積む機会や、学ぶ機会がたくさんあったことです。子どもたちと直にふれあうことでしか得られない知識や考え方を学ぶことができました。現場実習で得た知識は今でも授業作りや生徒指導で役立っています。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 悩んでいることがあれば「やってみよう」の精神で挑戦してみてください。失敗なんてありません。あるのはチャレンジしたかっという自分と大切な経験です。人生1度限り！全部楽しんでみませんか？みなさんの挑戦を応援しています。



谷中 愛梨 さん

英語教育コース 2014年卒業

津市立
北立誠小学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 高校生の時に、バンクーバーに留学しました。その時から、英語の言語や文化について、大学でさらに勉強したいと思うようになり、英語教育コースを選びました。また、大学卒業後に英語を活かした仕事に就きたかったので、先生になれる教育学部を選択しました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 同期と一緒にさまざまな課題に取り組んだことです。課題が多く、大変なときもありましたが、ゼミ室で意見を交流し合ったり、教え合ったりして乗り越えることができました。今でも、同期の仲間は仕事のことを相談できる大切な存在です。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 卒業論文で、「小学生のリスニング能力を向上させるための取り組み」について、英語教育が先進的に進んでいた韓国と日本の教科書を比較して研究しました。自分が教職についてから、小学校3年生から英語が始まり、教科書の構成が研究したものと類似していたこともあり、大学で取り組んだことが現場に活きた気がしました。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. コロナ禍で大変な世の中ですが、夢を持って頑張ってください。大学では、勉強はもちろんですが、仲間とのつながりができると思います！夏休みや春休みも長いので、その期間を利用して、留学や、さまざまな遊びにも挑戦できます。ぜひ、がんばってくださいね！



中谷 紗也 さん

学校教育コース 2021年卒業

伊賀市立
久米小学校 勤務

Q. 所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 将来は小学校の先生になりたいと幼い頃から思っていました。教科にとらわれず「教育」について考え、学びを深められることに魅力を感じてこのコースを選びました。また、子どもの発達や心の問題、対人関係などにも興味があったため教育心理学専攻を選びました。

Q. 大学での一番の思い出は何ですか？

A. 「志摩実地研究」です。2泊3日で小学校に行き、授業をしました。ペアを組み、ねらいや題材から授業内容まで全て自分達で計画し、私たちは「アサーション」というコミュニケーションスキルに関わる授業をしました。こういった、教科の枠をこえた授業を実践できたことは学校教育コースの強みだと思います。

Q. 社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 様々な子どもがいると知ったことです。教育支援センター(適応指導教室)に通う子ども達と関わってたくさん話や活動をした、授業で事例を扱ったりする中で「友達とうまくいかない」「自分を出せない」その背景には何かあるのだろうと考えました。一人ひとり違った背景を持っていることを知り、子どもをとらえる視点が広がりました。

Q. 高校生へのエールを一言お願いします。

A. 大学生生活、とっても楽しいです！学部やサークル、アルバイトなどでの様々な人との出会い、大学祭や教育実習などの今までにはなかった経験。コロナ禍で例年通りにはいかないことも多々ありますが、それでも形を変えて必ず出会いや経験はあります。つらいコロナ禍を経験してきたからこそ得られる強さがあると思います。応援しています！

